

JADA

全国自動ドア協会

全国自動ドア協会 50年のあゆみ
Since 1974

Japan Automatic Door Association

50 | 
Anniversary



INDEX

内田会長 ご挨拶	3
古野副会長／高橋副会長 ご挨拶	4
全国自動ドア協会概要	5
創立50周年記念大会を開催	7
来賓祝辞	8
謝辞	9
協会役員名簿	10
祝辞	11
自動ドアの歴史	12
自動ドアの技術進化	13
自動ドアの安全性向上のために	14
技能検定の取り組み	15
協会の思い出	
三軒 保 (全国自動ドア協会 第四代会長)	16
篠崎 恵 (ナブコシステム株式会社 元代表取締役社長 / 全国自動ドア協会 元理事)	17
清水 勲夫 (寺岡オートドア株式会社 元取締役 / 全国自動ドア協会 元理事)	18
田原 長俊 (扶桑電機工業株式会社 元取締役 / 全国自動ドア協会 元理事)	19
創立50周年記念 幹部役員座談会	20
全国自動ドア協会 各委員会事業報告書	24
全国自動ドア協会 会則	26
統計資料 (生産台数と据付台数 / 自動ドア施工技能士合格者数)	28
会員一覧	29
全国自動ドア協会 50年のあゆみ	31
JADA 刊行物のご紹介	37
謝辞／編集後記	39

全国自動ドア協会創立50周年式典 ご挨拶



当協会は意義深い50周年を迎え、
「安全」「安心」「快適」の提供に向け
一層の努力を重ねて参ります。

全国自動ドア協会 会長 内田 正則

全国自動ドア協会は1974年4月、自動ドアの販売会社により「自動ドアの健全な普及をもって社会に貢献すること」を目的に創立され、その後、メーカーならびに賛助会員様が加わり、本年度50周年の節目を迎えました。半世紀の長きに亘り、活動を継続発展することができたのは、ひとえに関係各位のご支援、ご指導と、何よりお客様にご愛顧いただいた賜物であることを、心より感謝申し上げます。

50年の星霜を顧みますと、創立は高度経済成長の終焉、且つオイルショックの時期であり、その後もバブル経済とその崩壊、リーマンショック、阪神淡路や東日本大震災等、幾多の困難を乗り越えてまいりました。直近においても、東京オリンピック・パラリンピック、そして全世界に甚大な影響と変貌をもたらした新型コロナウイルス感染症と、まさに「有為転変^{ういてんぺん}」な時代と共に歩んでまいりました。

当協会は設立時の目的を果たし続けるため「自動ドア品質基準」「施工基準」「保守基準（現保全基準）」更には「自動ドア安全指針」を自主制定。1992年には「自動ドア施工技能審査制度」が「自動ドア施工技能士の技能検定」として国家検定へ移行いたしました。この制度による有資格者は累計で約8,000名となり、全国各地で施工品質の維持・向上に尽力しております。また、1995年には「自動ドア開閉装置の試験方法」がJIS規格制定されました。

かような自動ドア業界において、2004年に大型自動回転ドアによる痛ましい事故が発生いたしました。当協会では自動ドアの安全確保を最優先課題と捉え、国交省、経産省の迅速なご指導により、6月には「自動回転ドアの事故防止対策に関するガイドライン」を、翌年には「自動回転ドア-安全性」のJIS規格を制定いたしました。そして、2005年にはスライド式自動ドアの「安全ガイドライン」を自主制定、約12年の運用を経て、2017年には関係各所のご協力のもと「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセット-安全性」制定へと繋がり、現在の安全基準となっております。

今日、自動ドアは私達の生活において、なくてはならない存在となっております。当協会は意義深い50周年を契機に「安全」「安心」「快適」の提供に向け一層の努力を重ねていくと共に、バリアフリー、省エネルギー、セキュリティ、更にはDX化を通じて社会に貢献していく所存でございます。

最後に、これからも会員各社様ならびに賛助会員様のご指導・ご鞭撻を賜りながら、自動ドア業界ならびに当協会の更なる発展にご協力をいただきますようお願いを申し上げ、創立50周年のご挨拶とさせていただきます。

全国自動ドア協会創立50周年式典 ご挨拶



全国自動ドア協会 副会長 古野 重幸

全国自動ドア協会が50周年の節目を迎えたことは大変意義深く、発足当時からその基礎を築かれた諸先輩はじめ、各委員会活動において日々尽力されてきた多くのメンバーの方々に心から敬意と感謝を表したいと存じます。

当協会が果たして来た役割や具体的な成果を考えたとき、会員各社の存続発展と協会の健全な発展は不可分な関係にあることを改めて認識すべきだと思っております。1社だけでは世の中に通用するスタンダードは作れません。関係省庁は当協会が国内需要の9割以上を占める団体であり、かつ長年に亘り数多くの成果を残してきたからこそ信頼を置いているのです。当協会が今後もその役割を果たしていくために必要なことが2つあると考えています。一つは、会員各社が等しく協会活動に積極的に参加し、かつ応分の負担と責任を担うこと。二つ目は、当然のことながら協会で決まったことは各社必ず実行すること。通行者の安全向上のための JIS 準拠の自動ドアの普及もその重要な一つです。

人手不足の深刻化は自動ドア業界の最大の問題です。グローバルな観点からの低炭素社会に向けた大きな潮流も我々の事業と無縁ではありません。時代の大きな変化に対応し会員各社が堅実な経営を継続し、その上で協会として一層力を合わせ社会的な要請に応えて行くこと。それが次の輝かしい節目に向けて大切だと考えています。



全国自動ドア協会 副会長 高橋 誠司

自動ドアの普及・発展を目的として設立された全国自動ドア協会も、今年で節目となる50周年を迎えることとなりました。これまでの間、歴代の会長、副会長や委員会の役員、そして会員企業様が一丸となって自動ドアの品質向上に努めてきた結果、未だに世界一の自動ドア大国としての地位を継続しており、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

協会発足当初は品質、施工、保守に関する業界独自の基準が整備されていましたが、国際的な安全基準整備の流れを受け、当協会として JIS 規格への取り組みを開始し、2017年3月に自動ドア全般にわたる安全規格「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセッター安全性」が制定されました。業界基準から国家基準へと格上げされたことで、これまで以上に自動ドアの安全性が担保されたことになり、業界としても大変喜ばしいことと考えています。

今後は、超高齢化社会に加えて人手不足もより顕著となってきます。また、新たに脱炭素社会への対応も求められるなど多くの課題が山積していますが、これからも安全・安心な自動ドアを提供し続けることが当協会の最大の使命であり、協会会員の皆さまとともに課題解決に向けた取り組みを進めて参ります。

■ 全国自動ドア協会概要

1. 協会のあゆみ

全国自動ドア協会は、昭和49年（1974年）4月に設立され、今年で創立50年目を迎えました。当協会では、「安全」「安心」「快適」をキーワードとして自動ドアを社会に提供するため、品質・施工・保全に関する基準を整備し、協会会員はこれに基づいて製造、施工、維持に取り組んでいます。

2. 目的

当協会は自動ドア全般に関する技術・品質及び安全性の向上を図り、自動ドアの健全な普及をもって社会に貢献することを目的として設立され、自動ドアのバリアフリー化、通行者の安全性向上、省エネルギー化、セキュリティ性向上など、社会のニーズに合致した自動ドアを提供し、社会貢献に努めています。

3. 会員数及び自動ドア総生産台数

現在、正会員13社、賛助会員8社、特別会員2社によって運営しています。

当協会の会員会社による、2022年度の自動ドア総生産台数は約141千台であり、国内での総据付台数は約129千台でした。これは国内の自動ドアの約90%を占めています。

4. 国家検定「自動ドア施工技能士」

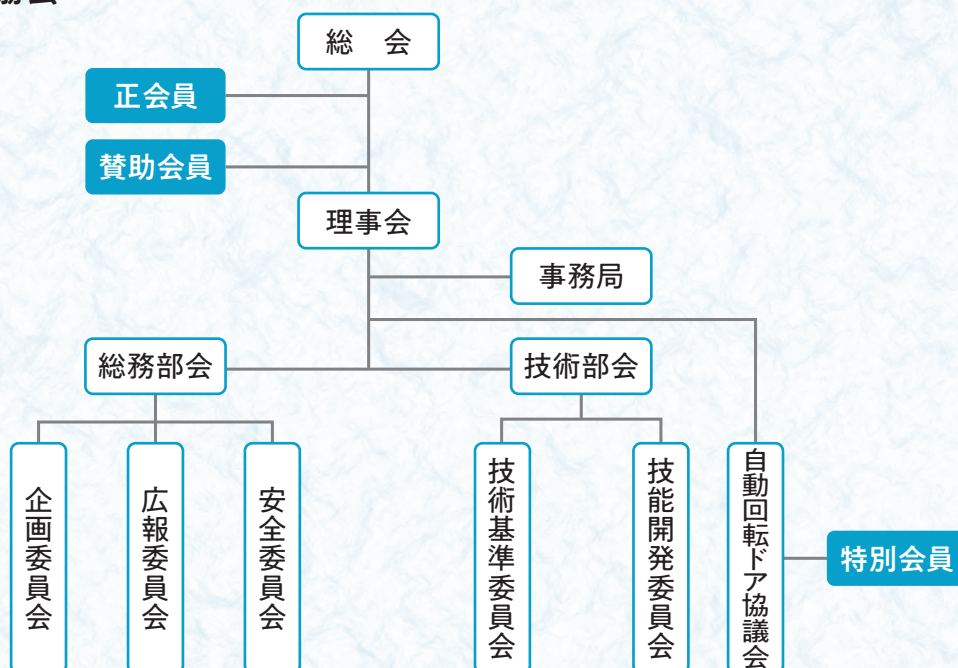
当協会では自動ドアに従事する者の技能と地位の向上を図るものとして、1986年から全国自動ドア協会認定の施工技士制度を発足し、1992年に国家検定の施工技能士制度に移行してからは、毎年200～300名が認定され、累計約8千名の施工技能士が誕生しています。

自動ドアの適切な点検整備の必要性を広く知らせると共に、適正な点検整備を提供できる自動ドア施工技能士の育成と充実を図っています。

5. 安全への取り組み

2004年の自動回転ドアの事故以降、「自動回転ドア安全ガイドライン」の施行、「JIS A 4721 自動回転ドアー安全性」の制定協力をおこない、2005年に「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」を発行、2008年にお子様向けに「自動ドアの安全な通り方」を作成しました。更に、2017年「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセッター安全性」の制定により「JIS 準拠安全ガイドブック」を発行し、2022年の改正により改訂版を発行、バリアフリースイレ用自動ドアについても別冊を作成しました。これらの情報はホームページにも掲載して自動ドアの安全対策について啓発活動を実施しています。

全国自動ドア協会 組織図



正会員一覧

正会員 (13 社)	ブランド名	自動ドア表示 ステッカー
北陽オートドア (株)	アラビアン	
昭和オート (株)	ショウワオート	
寺岡オートドア (株)	テラオカ	
寺岡オート・ドアシステム (株)		
フルテック (株)		
扶桑電機工業 (株)	ドリーム	
オリエント産業 (株)	ナブコ	
ナブコシステム (株)		
ナブコドア (株)		
ナブテスコ (株)		
平安通商 (株)	ピスコ平安	
昭和建産 (株)	ミリオン	
ハシダ技研工業 (株)	THU ハシダ	

賛助会員 (8 社)

ハードガラス工業 (株)
藤原工業 (株)
オプテックス (株)
旭光電機 (株)
(株) ホトロン
(株) ワーム
ビーイーエージャパン (株)
竹中エンジニアリング (株)

特別会員 (2 社)

三和シャッター工業 (株)
三和タジマ (株)

※株式会社を (株) と省略しています。 ※ブランド名 : 50 音順

全国自動ドア協会 創立50周年記念大会を開催

JADA50年のあゆみ、
自動ドアの未来を拓いて**開催日** 2024年4月19日(金) **会場** ホテル インターコンチネンタル東京ベイ

1974年にスタートした全国自動ドア協会は2024年4月に協会創立50周年を迎え、ホテル インターコンチネンタル東京ベイにおいて記念大会が催されました。全国から約200名の方にご参加いただき、盛大な会となりました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

大会は式典、講演会、祝賀会の三部構成で行われました。第一部では、会長の挨拶に続き、来賓からの祝辞が述べられました。また、協会の発展に貢献した3名の功労者が表彰され、その功績が称えられました。第二部ではフリーキャスターの伊藤聡子氏が登壇し、「アフターコロナは地域の時代!～これからの企業のあり方～」と題した講演を行いました。そして、第三部の記念祝賀会で幕を閉じました。参加者たちは交流を深め、これまでのJADAのあゆみと自動ドアの未来への展望を語り合いました。



I. 記念式典



■ 挨拶／内田会長

式典 司会
武藤 企画委員長

来賓祝辞／潮崎 雄治様



◆経済産業省
製造産業局生活製品課
住宅産業室 室長
潮崎 雄治 様

全国自動ドア協会が創立50周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。自動ドアは50年の長きに亘り、日本経済の繁栄と国民生活の向上に貢献されてきました。今日、自動ドアは利用者の利便性を高めるだけでなく、セキュリティや衛生管理など、多くの付加機能を備えるようになりました。昨今 AI や IoT 技術の登場によって、世界の産業が大きく変わろうとしています。今後、自動ドア業界に付加価値の高い新たなビジネスやサービスが生み出されることを期待しております。

さて、貴協会を含む経済界の皆様のご尽力により、30年ぶりに日本経済に明るい兆しが出て参りました。停滞からの脱却、デフレからの転換のチャンスが訪れています。経済産業省は、環境保全と経済成長の両立を目指し、温室効果ガス削減や再生可能エネルギーへの転換を支援する政策を展開しています。また、2024年問題への対応や住宅業界の発展に向けた取り組みも進めております。今後、皆様方に対して周知活動を行って参りますので、ご協力をお願い致します。本日は誠にありがとうございます。

来賓祝辞／増岡 宗一郎様



◆厚生労働省
人材開発統括官付能力評価
担当参事官室 主任職業能力
検定官
増岡 宗一郎 様

全国自動ドア協会が50年という節目を迎えられましたことをお祝い申し上げます。協会の皆様には、日頃より労働行政や人材開発にご協力いただき、心から感謝致しております。1974年の創立以来、自動ドアはバリアフリーや省エネ、安全性向上やセキュリティ向上など、社会に多大な恩恵を与えたと承知しております。

また技能検定制度においては、自動ドア施工技能士の育成と技能向上を促進され、日本の発展に貢献されてきました。日本の産業において、技能者の存在は不可欠であり、厚生労働省もその一翼を担うべく、技能検定制度に関する取り組みを今後も強化していく所存です。

昨今、少子高齢化や若者の技術職離れが進行し、どの業界も技能の継承が課題となっています。技能が尊重され、かつ適切に評価される社会の実現に向けて、我々も努力して参りますので、皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。最後に、貴協会と会員の皆様方の益々のご発展を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

来賓祝辞／青木 義男様



◆日本大学理工学部 特任教授
青木 義男 様

全国自動ドア協会の創立50周年を心よりお祝い申し上げます。私はこの協会において、自動ドアの開閉装置の試験方法や自動ドアの JIS に携わり、学識経験を活かして微力ながらご協力させていただきました。

社会は大きな変革を遂げ、それに伴いさまざまな課題が生じています。2024年問題や人材不足など、様々な課題に取り組む必要があります。また、自然災害への備えや物流の効率化も重要です。

自動化や AI 技術の進化に伴い、自動ドアも新たな課題に直面しています。今や自動運転やドローンなどで物を運ぶというような時代に差し掛かっています。自動ドアも歩行者のみならず、こういったロボットに対しても安全性やセキュリティを確保していく必要がある、と私は感じております。そういった次世代のニーズに対応していくためには、全国自動ドア協会の皆様のご協力とご支援が必要です。

最後に、次の50年さらには1世紀先へ向けて、協会の皆様のご活躍とご多幸を心より祈念致します。本日は誠にありがとうございます。

功労者表彰



上仲 宏二



古野 重幸



吹澤 正祥

●受賞者

- ◆全国自動ドア協会 第十二代会長
上仲 宏二
- ◆全国自動ドア協会 副会長
古野 重幸
- ◆全国自動ドア協会
技能検定ブランド代表
吹澤 正祥

■ 謝辞／上仲 宏二 第十二代会長



全国自動ドア協会創立50周年誠にありがとうございます。半世紀という節目を迎え、永年にわたって協会の活動に携わってこられた皆様のご尽力に敬意を表すとともに、あらためて今日に至る協会の発展に対して、ここからお祝い申し上げます。さて、私は、2016年から2019年まで約3年会長を、2009年から2019年まで約10年理事を務め、その間さまざまな課題に取り組んでまいりましたが、一番印象に残っておりますのは、やはり自動ドアの安全規格である「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセッテ-安全性」の制定でございます。自動ドアの安全については、それまで協会の内規である三基準をはじめ、自動ドアの安全ガイドライン他いろいろな安全刊行物を作成して安全対策の周知をおこなってまいりましたが、国の規格として社会に生み出すことができたのは、業界内だけにとどまらず、広く一般の皆様への安全啓発という意味において、大きな貢献であったと思います。

今回、創立50周年という記念すべき日に、このような表彰の名誉をお受けできたのは、共に協会の活動に汗を流した仲間と会員の皆様のおかげであります。僥越ではございますが、本日表示された3名を代表して、お礼申し上げます。今後も全国自動ドア協会の一層のご発展と、皆様の健康を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

■ 閉会の辞／古野副会長



Ⅱ. 記念講演会



講演会 司会
鈴木 企画委員会幹事



講師
伊藤 聡子 様



Ⅲ. 記念祝賀会

■ 開宴の辞／高橋副会長



古野副会長(左)と
清水 元企画委員長(右)

■ 乾杯／吉田総務部会長



三軒 第四代会長



祝賀会 司会
室橋 企画副委員長

■ 中締／林技術部会長



■ 協会役員名簿（理事16名、監事2名）

会長

内田 正則

ナブコシステム(株)
代表取締役社長

副会長

古野 重幸

フルテック(株)
代表取締役社長

副会長

高橋 誠司

ナブテスコ(株)
取締役 常務執行役員
住環境カンパニー社長

総務部会長 兼 広報委員長

吉田 毅

寺岡オートドア(株)
代表取締役社長

技術部会長 兼 技術基準委員長

林 孝次郎

ナブテスコ(株)
住環境カンパニー 技術部長

企画委員長

三木 敏生

ナブコドア(株)
代表取締役社長

安全委員長 兼

自動回転ドア協議会委員長

小野 耕作

ナブコシステム(株)
上席執行役員
技術統括部長 兼 工務部長

技能開発委員長

小崎 弘

扶桑電機工業(株)
執行役員 生産本部長

事務局長

関尾 直人

全国自動ドア協会

理事

伊田 展充

ハシダ技研工業(株)
専務取締役

理事

熊井 善之

寺岡オート・ドアシステム(株)
常務取締役

理事

寺岡 宏司

昭和オート(株)
常務取締役

理事

直江 良憲

オリエント産業(株)
代表取締役社長

理事

細山 健二

昭和建産(株)
代表取締役社長

理事

宮澤 勇

平安通商(株) 常務取締役

理事

森 利宏

北陽電機(株) 上席執行役員
経営企画・エントランス部門担当

監事

鈴木 秀明

扶桑電機工業(株)
執行役員 営業本部長

監事

谷 浩

フルテック(株)
常務執行役員
営業本部開発営業部長

■ 祝辞



一般社団法人 日本サッシ協会 理事長 吉田 聡 様

全国自動ドア協会様におかれましては、このたび創立50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。会員各社、歴代関係者のご尽力に心より敬意を表します。

貴協会では自動ドアに関して、技術・品質及び安全性の向上を図るという目的のもと、バリアフリー化や通行者の安全性向上、省エネルギー化、セキュリティ向上といった社会のニーズに応える製品の提供に尽力されてきました。中でも、安全性の向上にあたりましては、弊協会も原案作成委員として関与しております「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセッター安全性」の制定及び維持管理のほか、自動ドア施工技能士の育成、各種安全ガイドブックの作成など、幅広い活動を実施されており、こうした貴協会の長きにわたる地道な活動によって、自動ドアを安全に利用できる環境が整えられてきたと実感しております。弊協会といたしましても、諸活動のお役に立つよう努めてまいりますので、引き続き緊密な連携をお願いいたします。

結びとなりますが、貴協会及び会員会社の皆様が、今後ますますのご活躍、ご発展を遂げられるよう心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



一般社団法人 建築開口部協会 専務理事 本多 直巳 様

創立50周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。

全国自動ドア協会様におかれましては、弊協会がカーテンウォール・防火開口部協会時代より所管する、防火設備の重要な構成をになう防火戸用自動ドア開閉機構をご指定いただくとともに、その品質と安全性の確保に向けた提供企業への指導・育成等を通じ、弊協会に対し多大なるご理解とご協力をいただいております。

弊協会は、2020年12月より「建築開口部協会」と名を改め、これまでの防火設備関連とメタルカーテンウォールに加え、改修・改装や点検・メンテナンスといった建築開口部の性能向上も目指す協会となりました。現在の全国の圧倒的な数の通則的認定防火設備に対しても、その安全性を維持しなければならない使命、そして今後の防火設備への新たな取り組みも必要となってまいります。そういった意味でも、全国自動ドア協会様には、弊協会との協力体制を引き続きお願いするとともに、相互の技術・品質および安全性向上を目指すことで、両協会の発展にもつながり、ひいては社会貢献にもつながっていくものと思います。貴協会の益々のご活躍を心より祈念申し上げます。

自動ドアの歴史

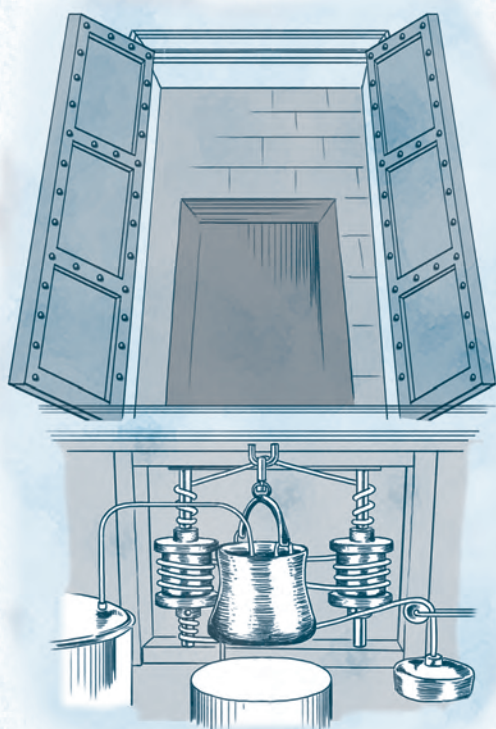
1 自動ドアの誕生

18世紀に世界へ広く伝わった『千夜一夜物語』（アラビアンナイト）。その中の挿話のひとつ『アリババと40人の盗賊』に登場する有名な台詞「開け、ゴマ」は“自動ドア”を連想させる有名なお伽話であるが、これはあくまでもフィクションである。

時代をさかのぼり、紀元前エジプトのアレクサンドリアでは、発明家のヘロンが神殿の扉に蒸気を利用して自動的に開閉させたといわれている。またレオナルド・ダ・ヴィンチは、余生を過ごしたフランスのクロ・リュッセで自動ドアを考案した、という逸話を残している。これらの真偽のほどは定かでないが、「ドアを自動で開く」ことは古今東西の人々の「夢」であったことは間違いないであろう。

驚くべきは後年、早稲田大学がヘロンの残した著書『ニューマチカ』に基づいて原理模型を再現したところ、実際に扉が自動で開閉したというから現代人から見ても驚異の発明である。

近代的自動ドアの基は欧米で19世紀末から20世紀初頭に創られたらしいが、最初の自動ドアがどのようなものであり、誰が創ったかについては記録が残っていない。1950年代に入って米国のスーパーマーケットなどに自動ドアが採用されるようになったようだが、この時代は空気圧制御と油圧制御が発展していたこともあり、自動ドアにもこの技術が利用されて形を成してきたものと想像する。初期に日本に入ってきた外国製自動ドアも、圧縮空気で動かす製品と、油圧で動かす製品であった。



ヘロンの自動ドア

2 日本の自動ドア

日本では、1925年（大正14年）に国鉄のモハ31系列車の乗降口に採用された空気圧式自動ドアが最初であったと言われている。初期の電車のドアは手動式で、数人の駅員が戸締まりの見回りをしてから発車しなければならなかったため、自動ドアにすることで安全輸送と定時運行の確保に寄与した。

建築用としては1930年代に銀座日劇前の東芝（マツダランプ）ショールームに光電スイッチ起動による自動ドアが展示されたという記録が残っているが、この自動ドアがいかなるものであったか、商品として販売実績があったかどうかなどは一切分かっていない。

一方で、日本の建物用自動ドアの近代史は1953年（昭和28年）に始まったといえる。当初は紡績工場や自動車メーカーへ販売活動を行っていたが、やがて「珍しさで集客につながるから」と銀行に導入されていった。すると、高級なイメージを必要とする銀行やホテルが競って自動ドアを使い始める。自動ドアが取り付けられた支店が全国各地に次々と増えることは、それだけで人々の目を引く常設の“自動ドア展示会”が催されていることと同じだった。

次いで自動ドアを採用したのが病院だった。当時の病院では、衛生に気をつけなければならないため、手術室のドアを開閉する専門の看護師をおいていたほどであったから、自動ドアが普及するのにさほど時間は掛からなかった。

3 現代の自動ドア

1970年代に入ると自動ドアは広く一般店舗などにも使用されるようになり、一段と市場が広がり、日本は自動ドアの普及率が世界一へと達することになる。

自動ドアが登場した当初こそ、通行人が躊躇するなどの戸惑いもあったが、時期を同じくして強化ガラスの引き戸が実用化され、業界のPRの努力もあって次第に浸透していった。この時代はエアコンが一般にも普及し始めたため、従来は開き放っていた食堂や喫茶店などの入り口を締め切る必要があり、店舗へも自動ドアを普及させた。

近代、自動ドアの設置台数は飛躍的に伸び、ビルの玄関は手動ドアを中心に考えられていた設計の時代から、自動ドアを普通に取り入れる設計の時代へと変化していった。今日、自動ドアがこれほどまでに普及するとは、当時の誰もが想像していなかった。

現在では、最新技術の導入、センサー性能の向上、JIS安全規格の制定など、安全性・快適性をより高めた製品が増えてきており、自動ドアは今も進化を続けている。

協力：構井克典（ナブテスコ株式会社）

自動ドアの技術進化

林 孝次郎(技術基準委員長)

全国自動ドア協会(JADA)では、「安全」「安心」「快適」をキーワードに、自動ドアの発展に寄与してきました。1970～80年代には『安全指針』及び『品質、施工、保守の三基準』が整備され、その後、「自動ドアの知識」も発行されたことで、JADAとして自動ドア技術関係の基準が整いました。

2000年代に入り、

自動ドア、回転ドアの事故などを契機とした安全性に対する社会的要求の高まりに対応し様々な活動を行ってきました。

2005年には

「自動ドア安全ガイドライン(スライド式自動ドア)」、「JIS A 4721:自動回転ドアー安全性」

2011年には

「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン」が制定され、安全性に対する基準も整備されました。

2017年には、

欧州の自動ドア規格(EN16005)などを参考とし日本市場の特性に配慮した要求事項などを加える形で、自動ドアの安全規格「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」が制定されました。この規格は、製品開発から、施工、保守まで自動ドアに関係する全てのプロセスを対象としており各社はこのJISに対応した製品を開発し、さらに施工、保守の体制を整えることでより安全性の高い自動ドアが実現されました。

2021年には

長年、大きな見直しがされていなかった「JIS A 1551:自動ドア開閉装置の試験方法」を改正し、施工現場での検出範囲の測定に樹脂板を用いた新たな方法が規定され、現場でより正確な測定が可能となりました。

また、消費者安全調査委員会から「自動ドアによる事故」に関する調査報告書及び意見書が公表され、この調査の結果をもとに、主に子供、高齢者への安全対策が求められました。その意見に対応する形で改定作業中であったJIS A 4722に子供の指のせん断及び引込みへの配慮として手指緩衝材を具備することが盛り込まれました。合わせて、2017年の制定時には対象外としていたバリアフリートイレ(便房用自動ドアセット)への要求事項も追加されました。

この様に、自動ドア協会では、長年にわたり安全性、快適性などの向上に努めてきましたが、さらに超高齢社会、労働者不足、地球温暖化などの社会的課題に依えていく必要があります。そのために、自動ドアの新たな技術として画像、レーダーなどのセンシング技術、IoTなどのネットワーク技術が採用されつつあり今後さらに発展、進化することが期待されます。

今後も当協会では、規格、基準の制定などを通じ、世の中の変化、ニーズに対応した自動ドアを提供し社会に貢献してまいります。

さらなる社会的課題



超高齢社会



労働者不足



地球温暖化

自動ドアの安全性向上のために

小野 耕作(安全委員長)

■安全への取り組み

1974年に発足した全国自動ドア協会（JADA）は、設立当初から品質や施工技術の向上などを図ってきました。1987年に安全問題特別委員会を設置、1991年12月には常設の安全委員会に改組し、「自動ドア警告ラベル」の配布や「安全確保の表示に関わるガイドライン」作成、「自動ドアの正しい通り方」のTVでのPRなど、自動ドアの安全性向上を目的とした啓蒙活動を行いました。

このような活動を行う中、大きな転機となったのが2004年3月に起きた六本木ヒルズでの自動回転ドアの事故です。母親と訪れた6歳の子供が自動回転ドアに頭部を挟まれ、お亡くなりになった痛ましい内容でした。当協会でもこの事故を重く受け止め、大型回転ドアを協会の対象製品に追加するとともに、「大型自動回転ドア安全対策マニュアル」（2004年7月）を発行しました。さらに「JIS A 4721 自動回転ドア—安全性」（2005年8月制定）の原案作成に参画しました。

また、自動回転ドアよりも普及している自動ドアに対しても、JADAとして安全を確保するための基準をまとめた「スライド式自動ドアの安全ガイドライン」と具体的な設置・調整方法をまとめた「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」を2005年に発行しました。同時に会員各社から事故情報を収集することとし、分析により得られた事故原因から、安全向上のための活動を立案・実行しています。

安全ガイドラインの浸透により事故報告件数は減少傾向でしたが、高齢化による人身事故増加の懸念があることから、自動ドアの安全性をさらに高めるため、2014年11月にJADAから日本規格協会のJIS原案作成公募制度に応募しました。2015年5月にJIS原案作成委員会が発足、2017年3月に「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセット—安全性」が制定されました。このJIS A 4722を普及させることで、自動ドアの安全性を向上させ、事故を減少させる活動を継続しています。

■事故報告件数の推移

図1は年度毎の事故報告件数の推移です。2006年の安全ガイドラインの運用開始後、徐々に事故報告件数は減少しています。また、2017年のJIS A 4722制定により、さらに事故が減少していることが見てとれます。

事故原因としては、事故情報収集開始当初は、「センサー検出範囲不備」が最多でしたが、自動ドア用センサー性能の向上とセンサーの検出エリア寸法を規定した安全ガイドラインの浸透により減少しました（図2）。

一方、2010年頃からは、自動ドアを通行する人が、前を見ずにドアに衝突する「駆け込み」の件数が増加しています。これはスマートフォンの普及により、「歩きスマホ」が増えたことも要因と推測されます。このような状況でも、センサー性能の向上と2017年のJIS A 4722制定により、近年では「駆け込み」による事故は減少しました。

図1 事故報告件数の推移

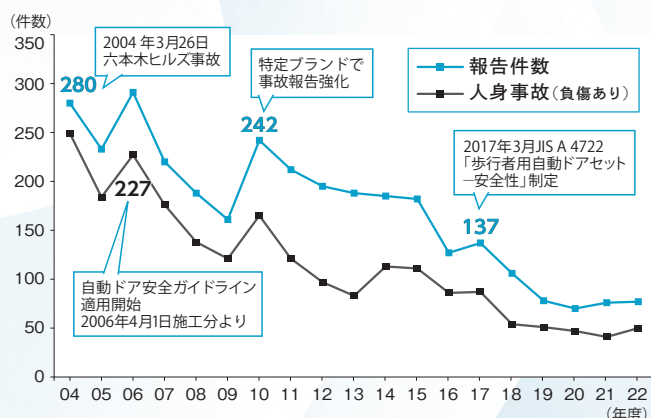
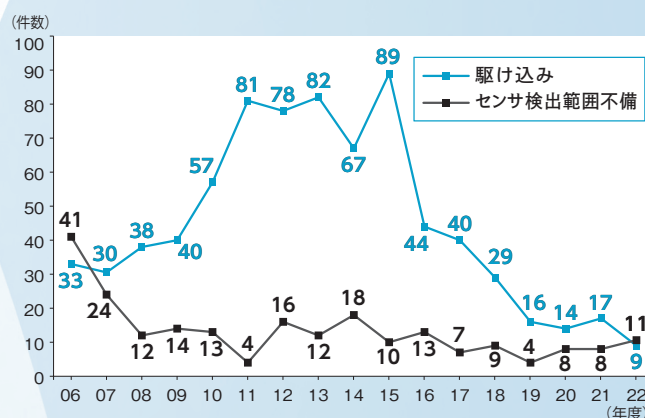


図2 事故原因 —駆け込みとセンサー検出範囲不備—



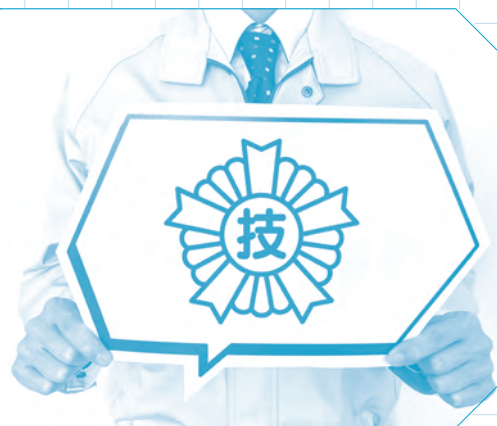
■最後に

安全ガイドラインの発行やJIS A 4722の制定および各種啓蒙活動により、自動ドアの事故報告件数を減少させることができました。JADAでは引き続き事故情報の収集と分析により、安全性向上のための施策を実行していきます。

技能検定の取り組み

小崎 弘(技能開発委員長)

技能開発委員会では、国家検定である「自動ドア施工技能検定」を実施するにあたり正会員の皆さまのご協力のもと、受検希望者の取りまとめ・実技試験の運営・技能検定委員の派遣などをサポートしてまいりました。



1992(平成4)年に国家検定の技能士制度へと移行されてから2022(令和4)年度まで、延べ人数1級3985名・2級4007名・合計7992名の自動ドア施工技能士が合格しております。

2017年3月に、自動ドアの安全規格である「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセット-安全性」が制定され、自動ドアの安全性がより求められる昨今、自動ドアを利用する通行者の皆さまの信頼をいただく上で、自動ドアの安全確保・快適性能の維持に貢献する自動ドア施工技能士は大変重要な役割を担っております。

新型コロナウイルスの感染拡大で「自動ドア施工技能検定」を実施するために、今までにないスタイルを求められた数年ではございますが、新たなコミュニケーションツールであるWEB会議の活用や、実技試験実施時のマスクやニトリルゴム手袋を着用するなどの感染拡大防止対策の徹底により感染者を出すことなく「自動ドア施工技能検定」を実施出来たことは、ひとえに関係者の皆さまのご協力によるものと感謝に堪えません。

また、自動ドア施工技能士の方が誇りを持って職務に取り組めるよう、2009(平成21)年から発足した優秀自動ドア施工技能士表彰制度におきましては、現在までに312名が授賞しております。

新しい社会へと変革していく時勢において、これからも「自動ドア施工技能検定」実施のサポートに邁進していく所存でございます。



優秀自動ドア施工技能士 記念品の盾



優秀自動ドア施工技能士表彰式(2019年)



優秀自動ドア施工技能士へ贈られる徽章



50年を回顧して

三軒 保

全国自動ドア協会 第四代会長

1953年頃は、乗務員による遠隔操作の電車の自動ドアは広く利用されていたが、通行人を検知し開閉する自動ドアは輸入品の油圧式が2、3の建物で働いていた程度であった。

1955年、日本エヤーブレーキ（現ナブテスコ）が建物用自動ドアを市場に出し、引き続き各社が参入した。

市場性のない初期の売り込みは「銀行のドアは賊の侵入や逃亡防止に開閉し難い構造にしているのに自動開閉などとてもない」と一蹴され、また、高名な建築家から、「格調の高い俺の作品のドアが自動とはイメージが崩れる、外せ」と言われ、設備設計担当の先生がこれからは自動でなければと進言され撤去を免れた。当時構成部品の品質が万全でなかった時代に、メンテナンスのため通行のない徹夜工事を重ねたこともあったが、ここまで面倒を見て貰えるなら次の物件を受注出来たこともあった。

開発当初は、開閉力は油圧、空気圧が利用されたが、電動モーターの制御技術が発達し、モーターの力が減速機構を介して利用されるようになり、軽量化・低コスト化が進んだ。人の動きを検知するセンサーも電子技術の高度化により複雑な機能を備えるようになった。開閉方式はスイングドアが主力の欧米と異なり、スライド式が馴染み深い我が国においては自動引き戸が主流になった。

良質の自動ドアを供給し、正しいメンテナンスを行って、市場に安全と安心をとの考えから、1973年9月「自動ドア懇話会」が発足、翌年「全国自動ドア協会」と改称、積極的な活動を展開した。販売・施工に関して安全指針、品質、施工、保守基準などの技術基準を整備した。

施工技能を向上させる手段として国の技能検定制度に組み入れを請願した。国は行政改革の一環として職種の増加を抑制しており、請願は聞き入れられず、協会の行う技能審査を認定するとの案を示された。学科教本「自動ドアの知識」を刊行し、1986年第1回技能審査をおこない254名の合格者が施工技師として認定された。

請願を続け、1992年自動ドア施工技能検定として制度入りを果たした。都道府県の受検者数を予測し北海道から沖縄まで各職業能力開発協会に実施についてのお願いに回った。北海道、東京、大阪、兵庫、岡山、広島、香川、高知、福岡、熊本、沖縄の11都道府県で実施を計画した。新合格者自動ドア施工技能士204名と施工技師からの合格者を含め、934名が発表になった。1993年3月肩の荷が下りた思いであった。今では、一・二級合計7,992名の自動ドア施工技能士が生まれ感慨深い。

安全と品質確保のため1995年11月「自動ドア試験方法」のJIS規格が制定され、原案作りに協力した。

近年は自動ドアの効用が認識され多用されているが、ビル内の環境向上、省エネ、安全確保、セキュリティなどの社会的要求は増加している。

様々なニーズを先取りし、これらに対処した自動ドアシステムの開発、安全性確保・向上、メンテナンス体制の確立等々我々の責務は重大である。用途開発を発展させれば、50年先の自動ドアは想像に難くないのではないかと。



半世紀の歩み

篠崎 恵

ナブコシステム株式会社 元代表取締役社長
全国自動ドア協会 元理事

全国自動ドア協会会員の皆様、この度は創立50周年の記念すべき、佳き日を迎え、誠におめでとう御座います。心よりお慶び申し上げます。

創立された昭和49年(1974年)以降、オイルショックや、バブルの崩壊と、大きく変動する経済情勢のうねりの中でも、多くのビル群や、店舗にも自動ドアの採用が急速に上向いて参りました。

中でも平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災、平成23年(2011年)の東日本大震災は忘れる事の出来ない大惨事であります。

しかし、今や自動ドアは日本の津々浦々までも普及し、生活や産業の各分野に於いて、欠くことの出来ない商品となって参りました。

言い換えますと、もう、自動ドア無くして、日本の社会や経済は成り立たぬと、言っても過言では無いかと思っております。

これも、各社様の多くの先人達、又現役社員の皆様の並々ならぬご苦勞とご努力の賜物と深く敬意を払うものであります。

全国自動ドア協会も満50周年を迎え、この先各社の皆様と10年、20年、いや50年と自動ドアがより一層、日本の一大産業の柱と成ります様に、大きく育て、発展し続けてほしいと切に願っております。

協会各社の皆様、これからもより一層、共に手を携え、刺激し合い、協力しあって、共に発展し続けます様、お願い申し上げます。

最後に、満50周年を迎えられた協会各社様の、益々の発展と、社員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。



35年間継続した4つの主な活動

清水 勲夫

寺岡オートドア株式会社 元取締役

全国自動ドア協会 元理事

全国自動ドア協会の創立50周年おめでとうございます。

私は、協会に1978年頃から約35年間、主に販売部に所属、協会活動を行って参りました。

協会設立の趣旨に「自動ドア開閉装置を通じて広く建築業界の省力化・合理化に貢献、販売、施工に関する市場問題の解決、品質性能の向上・技術開発などを目的とし、全国同業者が同じ立場から、業界の地位向上に努力する」とあります。私はこの趣旨に共感し、協会活動を行って参りました。

私の協会活動として、主に次の4つの事柄が印象に残ります。

その第一として、流通問題研究会にて、現在のいわゆる設計価格のフォーマットを作成、協会内・建築業界へ設計価格等の説明を行いました。また見積書の作成時、両引き・片引きの価格を提示する一括見積方式ではなく、自動ドア装置、起動装置、取付工事調整費、二次側配管工事費など各項目別価格を記載した見積書のフォーマットを作成し、適正価格の取引実現に努力しました。保守契約に関しても点検回数、保守価格などの基本事項を定めました。

第二として、活動を全国規模に発展すべく、全国に支部会を開設、販売部会を各支部にて開催し、協会活動を全国展開いたしました。

第三として、「自動ドアの知識」を協会より発行、自動ドア施工技術者の地位向上を図る為、協会は自主的に技能審査制度を導入しました。その後、当時の労働省に認定され「自動ドア施工技能審査」となりました。審査には筆記試験と実技試験がありますが、技能審査を通じて自動ドア知識を深めると同時に多くの技術者と交流を深めることが出来ました。

第四として、賛助会員が協会活動へ参加して頂くため、年一回の交流会を開催、関連製品の知識向上に努めました。同時に、新しい関連商品の開発を促しました。

その他、長年にわたり、協会活動に参加して参りましたが、協会では「自動ドアは安全で、快適な動く高級建材である」と言いますが、これに相応しい製品の開発・施工技術の向上・販売価格を実現・維持しなければ、協会の繁栄はありません。

これからも、各位の協力の下、ますます発展するようお祈り申し上げます。



自動ドア施工技能士の役割

田原 長俊

扶桑電機工業株式会社 元取締役

全国自動ドア協会 元理事

全国自動ドア協会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。
また50年間継続できたのは、会員の皆様のご協力あってこそのことと考えます。
私が貴協会の委員の一員に加えて頂いたのは、コンピューターの「2000年問題」が
取り沙汰されていたときでした。

私の記憶に残ることは、技術基準委員当時に社団法人日本建築協会より、全国自動ドア
協会に建築工事標準仕様書・同解説 JASS 16 建具工事編の改定で、自動ドアは建物に
広く一般的に使われるようになっているが、JASSでは自動ドアに関する記述がなかったの
で、改定に合わせて自動ドア開閉装置工事を掲載したいとの連絡があり、アルミニウム・
樹脂製建具工事の改定第3ワーキングに参画したことです。

当時、ワーキンググループ主査であった東京大学大学院 清家剛教授のもと、自動ド
ア開閉装置工事編として各節と整合するように配慮した本文・解説を求められ、提出し
た文書が数回に亘り校正があり、本文のみで付録となりましたが JASS 16 建具工事の初
出として掲載されたことです。

自動ドア全般にわたる安全規格 JIS A 4722 制定に伴い、自動ドアの施工現場で
その品質と性能を^{しっか}りと仕上げることのできる自動ドア施工技能士は大変重要な役割を
担っていますので、自動ドア施工技能士の技能検定に関し、貴協会の役割は、益々大き
くなって行くのではないかと考えます。

今日、人手不足・材料高騰等で何かと大変だとは思いますが、全国自動ドア協会創立
60周年に向け、会員各社が繁栄なさいますことをご祈念申し上げます。

幹部役員座談会

創立50周年記念



総務部会長

吉田 毅



副会長

古野 重幸

自動ドア業界を取

協会の役割と課題

——現在、全国自動ドア協会が担っている役割とは、どのようなものでしょうか？

内田会長 当協会は自動ドア全般に関する技術・品質及び安全性の向上を図り、自動ドアの健全な普及をもって社会に貢献することを目的として、設立されました。

具体的には、バリアフリー化、省エネルギー化など、社会のニーズに合致した信頼性の高い自動ドアを提供し、社会の発展向上に貢献することを目指しています。これは、自動ドアが社会全体で利用されることで、快適な生活や作業環境が構築されることを意味します。

また、当協会は自動ドアに従事する者の技能と地位の向上を図るべく、自動ドア施工技能検定に協力しています。これにより、業界の技術者のレベルも向上し、利用者の皆様にとって適切な保全点検が提供されます。

——協会として、様々な取り組みを行っておられますが、特に自動ドアの安全対策についてどのような活動をされているのでしょうか？

林技術部会長 大きく2つあります。1つが規格や基準の制定です。2017年3月に自動ドアの安全規格「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセット—安全性」が制定されました。海外の規格を参考にしながら、日本の市場にマッチした独自の規格となっています。2022年9月にはバリアフリートイレ用自動ドアが適用範囲に含められ、さらに多岐に亘って安全面が考慮されました。消費者庁からの要望もあり、それに対応するべくより安全な規格となりました。

もう1つが広報活動です。安全に関する刊行物やステッカーを作成し、ホームページなどを通して利用者や建物管理者の皆様へ安全啓発活動を積極的に展開しています。

安全、安心、快適をキーワードに、当協会は品質・施工・保全に関する基準を整備し、JIS規格などを通じて、安全な自動ドアの普及に努めています。

内田会長 「開けばいい」「閉じればいい」という単純なことではなく、通行者の安全を保ちながら、バリアフリーや省エネ、DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応など、社会のニーズに合致した信頼性の高い自動ドアを提供して、快適な社会生活に貢献していきたいと考えています。

技術面においては、自動ドア施工技能士の育成を通して、技術者のレベルも向上しています。適切な施工と保守を提供することによって、通行者への安全・安心・快適が実現できると捉えています。

林技術部会長 JIS規格は制定以降、「公共建築工事標準仕様書」にも採用されるようにもなりましたし、効果は徐々に出てきています。しかし事故というのは、完全にゼロになるものではありません。

最近の事故として多いのは、やはりスマートフォンを見ながらの“ながら通行”です。自動ドアが閉じていることに気がつかないような事故が起こっています。以前には考えられなかった状況で事故が起こっていますので、社会の変化に合わせて継続的に自動ドアの安全について考えていかなければなりません。

古野副会長 現在、毎年約15万台の新しい自動ドアが設置されています。通行者の事故は完全にゼロに

会長
内田 正則副会長
高橋 誠司技術部会長
林 孝次郎

り 巻 く 環 境 と 課 題

できないものの、事故は氷山の一角です。この氷山をできるだけ小さくするために現場との乖離を縮小する必要があります。会員各社が協力して対応しなければ、事故の減少は難しいでしょう。

エンドユーザーにリスクを伝える工夫も重要です。例えば、新聞広告や全国の教育委員会を通じて学校に情報を流すことが挙げられます。一般の方が協会のホームページを見ても、普通は自動ドアに危険を感じないでしょう。したがって、事故が起きてから危険を認識するのではなく、事前にリスクを伝える方法を模索する必要があります。

内田会長 建物管理者の責任というはあるけれども、やはり実際に通行される方々に事前に周知していく、というのを協会としては進めていくべきですね。

高橋副会長 世界を見ても、ここまで自動ドアが普及している国は日本の他にありません。出入口が自動で開く、というのはセキュリティ的にはかなりリスクがありますが、日本の治安の良さもあって普及しています。また、自動ドアの適切な施工や保守が“通行者の安全・安心”に大きく寄与していると考えています。ここまで自動ドアが普及してきた要因として、そういった業界の努力が大きかったのではないのでしょうか。世界的に見ても、日本は安全に対する関心が本当に高い国です。

古野副会長 全国自動ドア協会として、50年続けてきました。自動ドアという製品が誕生して、10年ほどでこの協会ができたわけですが、社会の認知度もまだ低い中でよくぞ協会を起ち上げてくれたな、と先輩たちに感謝しています。協会設立の趣旨として「業界の地位向上」が挙げられますが、その原点を忘れずにもっとレベルアップしていくことが必要だと思います。

高橋副会長 自動ドア業界に限らず、建設業界全体がいま深刻な人手不足という認識があります。ただ、ビルが建てば、必ず自動ドアが出入口につくはず。ビルのフロントというのは、建物の一番大切な部分ですから“大きな建物の顔を自分たちが作れる”といった魅力を伝えていきたいと思います。

あとは、2024年問題ですね。建設業界の働き方を変えていかないと将来は暗いと感じています。欧米では「2030年までにマンアワーを3分の1にしないと生き残れない」といった話も常識になりつつあります。

建設業界で言えば、女性が圧倒的に少ないという事実があります。総務省のデータによると他業種では30～40%の女性が活躍しているのに、建設業界は14～16%と低い水準を何年も漂っています。女性が働きやすい環境を整えれば、将来的に高齢者が働ける場所にもなり得るので、そういったことも意識して、業界として考えていないといけませんね。

古野副会長 施工や保守で、女性のスタッフが増えればいいですね。女性トイレや病院の更衣室・脱衣所など、デリケートな場所で行う工事では男性は作業しづらいので。

若い人にとって魅力のある業界に

——自動ドア業界の現況と将来の展望をお聞かせください。

協会の目指す方向

——今後、自動ドア業界に求められるもの、また全国自動ドア協会として目指す方向はどのようなものでしょうか？

吉田総務部会長 “安全”はもちろん重要ですが、他には“省エネ”ですね。東日本大震災の後に電力事情が急速に悪化して、「自動ドアは電気のムダだ!」と誤解されたこともありました。本来、自動ドアは建物の空調を保って、むしろSDGsに繋がる製品です。やはり、自動ドアには存在価値があるんですよ。

それから“バリアフリー”。高齢者や身体が不自由な方、荷物を抱えながら子供の手を引く親など、そういった方には非常に便利な存在です。超高齢社会を迎え、社会福祉の充実が強く求められる昨今、高齢者や身体が不自由な方々が自立して社会生活に広く参加できるよう、国や自治体では公共交通施設や建築物などのバリアフリー化が進められており、協会として最大限の貢献をしたいと考えています。

高橋副会長 SDGsと言えば、建物玄関の無駄開きを自動ドアで防止することによってCO₂削減効果がどのくらいあるのか？という議論がありますが、客観的に効果を立証できれば良いアピールになると思っています。フランスでは、建物のドアの開け放しに罰金約10万円を課すといった法律が施行されました。そういう意味で、自動ドアは地球に優しいと言えます。

古野副会長 一番良いのは、根拠に基づいたデータを使って、「手動ドアよりも自動ドアのほうが地球環境にプラスになりますよ」ということがアピールできることですね。これは今度のテーマとして、考えていきたいです。

吉田総務部会長 我々自動ドア業界の人間としては、自動ドアの有効性というのは感覚として確かに感じていることなので、大学の先生などと協力して具体的な調査を行ってみても良いかもしれません。

古野副会長 このSDGsやサステナビリティといった世界の流れは、国際標準になりつつありますね。



会長 内田 正則

安全性の追求

——創立50周年という節目を迎えまして、何かメッセージがあればお聞かせください。

古野副会長 自動ドアって、すごく恵まれた製品なのです。バブル崩壊後の長い長い不況の中で、様々な建築資材の需要動向を見てみると、どの建材も生産台数がかなり減っています。でも自動ドアの生産台数は、ほぼ横ばいで踏ん張ってきました。建設業界の中でこれだけ需要が維持された建材って、なかなかないのですよ。そこに感謝するべきです。

感謝とは具体的に言えば、お客様に対して施工、保守、説明、それを一台一台きっちりとやるということ。安全もそうですけれど、メンテナンスは自動ドアの収益の源泉なのだから、「自動ドアを設置しただけになっていないですか?」と言いたいですね。

そこをしっかりとやれば安全性も高まるし、結果的に賃金も収益も上がるはずなのです。

内田会長 メンテナンスにより、安全性は高まるでしょうね。設置した自動ドアを放置しておくから経年劣化で故障して、最悪の場合は事故にまで発展してしまう。そういう事故を減らすためにも、経過をフォローしておくというのは必要だと思います。



副会長 高橋 誠司



総務部会長 吉田 毅



副会長 古野 重幸

林技術部会長 安全の話で言えば、協会で規格や基準が制定されていますが、実際の現場を守るのは各会員の方々です。そのためには、会員一人ひとりが規格を理解し、基準を守ることが必要です。

したがって、個々の意識改革と責任が今後は更に求められることなのかなと感じています。

古野副会長 そうですね。50年という節目を迎えて、協会が次のステップへ進むためには大事なことだと思います。

自動ドアの未来

内田会長 最近、飲食店で配膳ロボットというのが活躍していますが、それが将来病院で採用されるような時代が来るかもしれません。その時には自動ドアが重宝されるはず。自動でドアが開かなければ、ロボットも病室に入れないと思うので。

林技術部会長 自動ドアはまだまだ進化していくと思いますよ。自動ドアって、姿は基本的に変わらないですけれども、実は年々性能はアップしていて、進化しているのです。

究極的な理想は、通りたい人を適切な速度で最適な



技術部会長 林 孝次郎



開口幅で通行させる“ホテルのドアマン”じゃないですかね。センサーをもっと高性能にする必要がありますが、突然走ってくる人、ゆっくり歩いてくる人など、様々な状況を適切に判断してドアを開閉する。例えば高度なAIを搭載したセンサーが出てくれば、それは十分実現可能だと思います。

高橋副会長 日本は治安が良いので需要がないかもしれませんが、ヨーロッパには、「防弾自動ドア」というのがありました。警察や銀行など犯罪の危険性がある場所の自動ドアは防弾になっているのです。治安が悪い国は、強固で頑丈な自動ドアという方向性で進化していくのでしょうか。

内田会長 車の振動で発電して電気を作っている橋が実際にあります。それを応用して、人が沢山通行する場所なら、通行者の振動で自家発電してハイブリッド的な自動ドアにするというのも不可能ではないですね。消費電力全てを補うのは無理かもしれないけれど。

古野副会長 皆さん、いろいろな発想をお持ちで面白いですね。技術的には将来できそうです。ただ、コストが掛かるのでね。そこまでの製品をユーザーが本当に求めるのかどうかです。結局「じゃあ誰が使うの?」という議論になってしまう。良い製品だと思っても、世間に需要がなければ売れないんですよね。特に日本人は、デザインにもこだわりますから。

内田会長 日本人は、意匠に妥協しないですね。センサーを壁面や天井に埋め込んで、なるべく隠したがりものです。逆に海外ではほとんど埋め込まないです。

林技術部会長 ヨーロッパは業界主導で安全規格を作って世界へ広め、高い品質と高い価格で長年やってきた歴史がありますよね。製品をよく見てもやはり頑丈で、しっかり作ってあります。「安いということは逆に価値がない」というのが、西洋の価値観ですね。その辺が、日本はまだ弱いなという印象です。

内田会長 やはり自動ドアは“空気”を目指すべきです。日常で特別意識することはないけれど、人間の生活には必要不可欠な存在。それが、未来の自動ドアなのだと思います。

全国自動ドア協会 各委員会事業報告書

事業活動項目	総括
1 外部情報収集及び広報活動	担当／広報委員会
(1) 関係官庁の情報収集及び建議並びに答申	(1) 経済産業省製造産業局生活製品課へ当協会活動を半期毎に報告、また同課からの情報配信を会員に通知すると共に同課からの調査依頼に都度協力。
(2) 社会公共の関係情報収集と広報	(2) 官庁、関係団体、一般紙、業界紙、専門雑誌からの関連情報を、電子媒体を通じて会員向けに広報。
(3) 関連業界団体との情報交流	(3) 日本建材・住宅設備産業協会、日本サッシ協会、建築開口部協会、日本シャッター・ドア協会他関連団体と情報交換。
(4) 業界誌との情報交換及び広報	(4) 新型コロナウイルス感染の収束により、11月に記者懇談会を開催。当協会ニュースレター他資料を情報発信。
(5) 協会会報の発行	(5) 協会会報 7月号及び1月号を発行。
(6) ホームページ活用による広報	(6) 自動ドア生産台数、需要動向データ等の統計資料を最新情報に更新。「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセット－安全性」について、ポイント説明を掲載。
(7) JIS 制定に関する周知活動	(7) ホームページ、新聞広告を通じた啓蒙活動継続。
2 安全性向上及び安全啓発	担当／安全委員会
(1) 自動ドアの安全に関する研究並びに立案	(1) 自動ドアの規格制定・改正にあたり、JIS 原案作成分科会・本委員会に参画。
(2) 行政及び他団体等との安全に関する交流	(2) 消費者安全調査委員会報告書の意見に対するフォローアップとして当協会の取組み状況を経済産業省へ報告。
(3) 利用者及び関連主体等への安全啓発	(3) 利用者、建物管理者、設計者からの安全に関する質問・問い合わせに対応。
(4) 会員からの事故報告集計と分析 (半年毎)	(4) 半期毎(9月と3月)に正会員各社の事故情報を収集して分析し、その結果を正会員に報告。賛助会員へ通期分析結果を報告。
(5) 会員への代表的事故事例の連絡(1年毎)	(5) 正会員各社から提供された代表的な事故事例をまとめ、5月に正会員、賛助会員へ報告。
(6) JIS に対応した安全ガイドブック見直し	(6) JIS 改正に際して、安全関連刊行物を改訂。バリアフリートイレ用安全ガイドブックを新規作成。

事業活動項目	総括
3 市場調査及び需要拡大	担当／企画委員会
(1)自動ドアの需要に関する研究並びに立案	(1)業界情勢を半期ごとに確認し、市場動向を分析。
(2)自動ドアの健全な普及のための施策	(2)当協会非加盟業者の情報収集を継続。優秀自動ドア施工技能士表彰制度を継続。
(3)生産実績集計及び生産台数予測 (半年毎)	(3)当協会会員8ブランドの自動ドア生産実績集計と見通しを、6月と11月に発表。
(4)地域別市場別据付台数集計と分析 (1年毎)	(4)当協会会員8ブランドの自動ドア据付台数実績を集計して6月に発表。
(5)JIS 啓蒙活動と制定後の市場動向調査	(5)JIS 制定後の市場動向及び啓蒙活動の状況を確認。
4 自動回転ドアの市場調査	担当／企画委員会
(1)利用状況調査と関係官庁への報告	毎年自動回転ドアの新規設置台数調査を実施。隔年ごとに、既設の運行状況を調査。
(2)国内外関連情報の収集と研究	
5 事業企画及び推進	担当／企画委員会
(1)会員知識向上のための研修会の企画と運営	自動ドアに関連する知識習得のみならず、さまざまな分野に視野を広げるにより顧客サービスの質の向上と、需要拡大に貢献するべく、毎年度テーマを選んで研修会を企画・開催。(新型コロナウイルス感染拡大時期を除く)
(2)事業運営に関するコンプライアンスの取組	
6 技能検定への協力業務	担当／技能開発委員会
(1)自動ドア施工技能検定に関する業務協力	全国各地の職業能力協会を窓口として実施された自動ドア施工技能検定に関し、正会員各社の協力のもと、受検希望者のとりまとめ、実技試験会場の設営、検定委員派遣、検定補佐員の派遣等で協力。
(2)技能検定協力業務の合理的運営の推進	
7 技術基準の制定・改定及び情報交換	担当／技術基準委員会
(1)JIS 関連規格の制定・改定への対応	(1)自動ドアの規格制定・改正にあたり、起案し、JIS 原案作成委員会・分科会に参画。
(2)関係官庁、関連団体との技術基準情報の交換	(2)「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセッター安全性」他関連規格の制定・改正に際して、運用マニュアル(設計編)、品質・施工・保全の三基準を都度改訂。
(3)官庁、団体の関係規定等に関する建議及び答申	(3)多機能トイレ用駆動装置の評価更新に際して、公共建築協会と情報交換。
(4)防火戸通則認定に関する保守運用スキームへの対応	(4)建築工事監理指針令和4年版、建築改修工事監理指針令和4年版、建築保全業務共通仕様書令和5年版及び同解説の改定にあたり、意見書の提出など作業協力。
(5)関係規格の研究と対応	—

■ 全国自動ドア協会 会則

第1章 総則

第1条 [名称]

本会は、全国自動ドア協会と称し、英文では JAPAN AUTOMATIC DOOR ASSOCIATION (略称 JADA) と記す。

第2条 [事務所]

本協会は主たる事務所を東京都内に置く。

第3条 [目的]

協会は、会員相互の協力により、自動ドア全般に関する技術・品質及び安全性の向上を図り、自動ドアの健全な普及をもって社会に貢献することを目的とする。

第4条 [事業]

協会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 自動ドアに関する材料及び工法の調査研究
2. 自動ドアに関する規格・品質及び安全に関する調査研究
3. 自動ドアを普及発展するための必要な方策の立案及び推進
4. 自動ドア利用者等に対する安全啓発活動の立案及び推進
5. 自動ドアに関する資料の収集及び情報の交換
6. 自動ドアに関する研究発表及び出版物の発行
7. 関係官公庁、関係団体及び建築開口部構成材業界に対する建議並びに答申
8. 自動ドア施工技能検定に対する協力
9. 自動ドア施工・保守の技術・技能向上に関する事業
10. その他協会の目的を達成するため必要な事業

第5条 [構成]

1. 協会は、技術部会、総務部会、及び自動回転ドア協議会により構成され、その運営は本部をもって行われる。
2. 技術部会、総務部会は別の細則で定める。
3. 自動回転ドア協議会については別に会則を定める。

第2章 会員

第6条 [会員の資格及び構成]

協会は正会員、賛助会員、特別会員で構成される。

1. 正会員：自動ドアの製造に携わり且つ販売・施工・保守まで一貫した販売組織を有する企業及び正会員の製品を販売・施工・保守まで一貫して営む企業とする
2. 賛助会員：協会の発展に賛同する企業及び団体とする。その種類を A、B、C の3種とする。
この種については別に定める。
3. 特別会員：協会が企画・推進する当該事業の趣旨に賛同し協力する企業とし、その活動は当該事業範囲内とする。

第7条 [会員の認定]

1. 正会員として入会しようとする者は、正会員2社の推薦により理事会の審査を経て総会の承認を得たうえ、入会金を納入して登録されるものとする。
2. 賛助会員として入会しようとする者は、正会員1社の推薦により理事会の承認を得たうえ、年会費を納入して登録されるものとする。
3. 特別会員として入会しようとする者は、理事会及び当該協議会の承認を得たうえ、入会金と年会費を納入して登録されるものとする。

第8条 [会員の権利]

会員は次の権利を持つ。

1. 正会員は定められた各種会議に出席し、意見を述べ議決に加わることができる。
2. 正会員は協会の業務及び財産の状況につき説明を求め、書類帳簿の閲覧を求めることができる。
3. 賛助会員は総会に出席し意見を述べることが出来るが、議決に加わることは出来ない。但し、部会、委員会の出席については別に定める。
4. 特別会員は総会に出席し意見を述べることが出来るが、議決に加わることは出来ない。但し、当該協議会等に参加し活動することは出来る。

第9条 [会員の義務]

会員は次の義務を負う。

1. 会則、諸規程並びに総会の決議に従うこと。
2. 協会の事業を進める上で支障のない限り、必要な調査等及び運営に協力すること。
3. 知りえた秘密を守ること。
4. 定められた経費を負担すること。

第10条 [登録の取り消し]

次のような場合は会員の登録を取り消す。

1. 会員が会員たる資格を無くしたとき。
2. 会費の滞納が納付期限から一年以上に及ぶとき。
3. 第9条会員の義務に違反したとき。
4. 協会の目的及び運営に支障をおよぼす行為があり、総会の決議により除名されたとき。
5. 会員の意志により退会を希望する時には、理事会の議決を経て退会届けを会長に提出するものとする。

第3章 経費負担

第11条 [入会金及び会費]

1. 協会に入会するときは、所定の入会金を納入する。この額は総会で定める。
2. 会員は、協会の運営及び事業の実施に要する経費を負担するため、会費を納入しなければならない。
この額は総会で定める。
3. 一旦納入された入会金及び年会費は、脱退その他の事由によるも返戻しない。
4. 主として親睦の為の宴会費等の費用はその都度参加会員が参加人員割によって負担する。
5. 会員が退会する時は、会費を完納しなければならない。

第4章 役員

第12条 [役員]

協会に次の役員を置く。

1. 理事 15名以上20名以内 監事 2名以内
2. 理事の中から互選により、会長1名及び副会長2名を定めるものとする。
3. 事務局長は理事とする。

第13条 [役員の職務]

1. 会長は、協会を代表し、会務を統轄する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、あらかじめ会長の定めた順序により、その職務の代行をする。
3. 理事は、理事会を構成し、総会の議決に基づいて会務を執行する。
4. 監事は、民法第59条の職務を行うほか、理事会に出席して意見を述べることが出来る。ただし、議決に加わる事は出来ない。

第14条 [役員の選出]

1. 役員は、正会員を代表する者の中から、総会において選任する。
正会員を代表する者とは、正会員企業の取締役であって、協会に関連する事業において会社の意思を表明できる者を言う。ただし、事情により正会員会社から願い出たときは、理事会の過半数の賛成があった場合に限り、正会員会社の取締役役に代わる立場の者を当協会の役員として総会で選任することができる。
2. 事務局長は前項に拘わらず、正会員以外の者から選任することが出来る。
3. 理事及び監事は、相互に兼ねることが出来ない。
4. 役員の任期は就任後2年内の最終期に関する定期総会終結のときまでとする。ただし再選を妨げない。
補欠または増員により選任された役員の任期は、他の現任役員の任期満了のときまでとする。
5. 任期中における役員に欠員の生じたときは、理事会で仮に選任し、次の総会で承認を求める。
6. 本協会の役員としてふさわしくない行為があった場合、任期中といえども総会の決議により役を解任することが出来る。

第15条 [役員の定年]

役員の定年は満70歳とする。その任期は当該役員が定年に達した年度の最終期に関する定期総会終結のときまでとする。尚、定期総会

の開催月内に定年に達するものは新たに役員に就任できない。ただし、所属する正会員会社の推薦があり、且つ理事会の過半数の賛成があった場合に限り、定年を超えた後に総会の選任によって新たに役員に就任できる。

第16条 [相談役]

1. 協会は会長経験者の中から理事会の推薦により、相談役を置くことができる。
2. 相談役は、会長の諮問に応じ、意見を述べるができる。
3. 相談役の任期は2年以内とする。

第5章 事務局

第17条 [事務局]

協会に事務局を置く。

1. 事務局は理事会に所属する。
2. 事務局は理事会で決定した事項の実務処理を行う。
3. 事務局長は理事の互選、或いは理事会の任命による。
4. 事務局に必要に応じ職員を置くことができる。
5. 職員は会長が任免する。

第6章 会議

第18条 [会議の種類]

会議は、総会、理事会とする。

第19条 [総会]

1. 総会は、最高の決議機関である。
2. 総会は定期総会と臨時総会とする。
3. 定期総会は毎年1回6月に会長これを召集する。
4. 臨時総会は会長が必要と認めたとき、或いは正会員の1/3以上の者から会議の目的事項を示して開催の請求のあったとき開催する。
5. 総会は、正会員の過半数（委任状を含む）により成立し、議決は出席正会員（委任状を含む）の過半数の賛否により決定する。賛否同数の場合は議長の採決による。
6. 総会の議長は、会長がこれにあたる。
7. 総会における議決権は、正会員各1票とする。
8. 総会は次の事項を審議する。

(イ)事業経過報告及び会計報告

(ロ)事業計画案及び予算案

(ハ)入会金・会費の額の決定

(ニ)役員の選出

(ホ)会則の改正

(ヘ)理事会よりの付議事項

(ト)その他の動議事項

第20条 [理事会]

1. 理事会は必要に応じて、理事の協議の上開催する。
2. 理事会の議長は会長がこれに当たる。
3. 理事会は、理事の過半数（委任状を含む）により成立し、議決は出席理事（委任状を含む）の過半数の賛否により決定する。賛否同数の場合は議長の採決による。
4. 理事会は、この会則で別に規定するものの他、次の事項を議決する。

(イ)総会に付議すべき事項

(ロ)総会の議決した事項の執行に関する事項

(ハ)諸規定の制定並びに改廃に関する事項

(ニ)その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

5. 緊急を要する案件は文書により意見を聴取し、理事会の議決とすることができる。
6. 理事会は部会長を選任する。

第21条 [議事録]

会議の議事については、次の事項を含む議事録を作成し、議長及び出席正会員又は理事のうち2名以上が記名捺印しなければならない。

1. 会議の日時及び場所
2. 出席者、欠席者の氏名
3. 議事の経過及び議決事項

第7章 資産と会計

第22条 [資産]

協会の資産は、次のものから成る。

1. 入会金
2. 会費
3. 寄附金
4. 事業収入
5. 資産から生ずる収入
6. その他

第23条 [資産の管理]

資産は事務局長が管理し、その方法は経理規程による。

第24条 [収支の予算]

収支の決算は監事の監査を経て総会の承認を要する。収支予算は総会の審議により決定される。

第25条 [会計年度]

協会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第8章 委員会

第26条 [委員会]

1. 協会は、業務の円滑化を図るため、理事会の議決を経て委員会等を設けることができる。
2. 委員長は会長が委嘱する。

第9章 表彰

第27条 [功労者の表彰]

協会は協会の運営と繁栄に著しい貢献があった者を表彰する。表彰者は理事会の過半数の賛成をもって承認されるものとする。

第10章 会則の変更及び解散

第28条 [会則の変更]

この会則は、総会において正会員の3/4の同意（委任状を含む）を経て改正することができる。

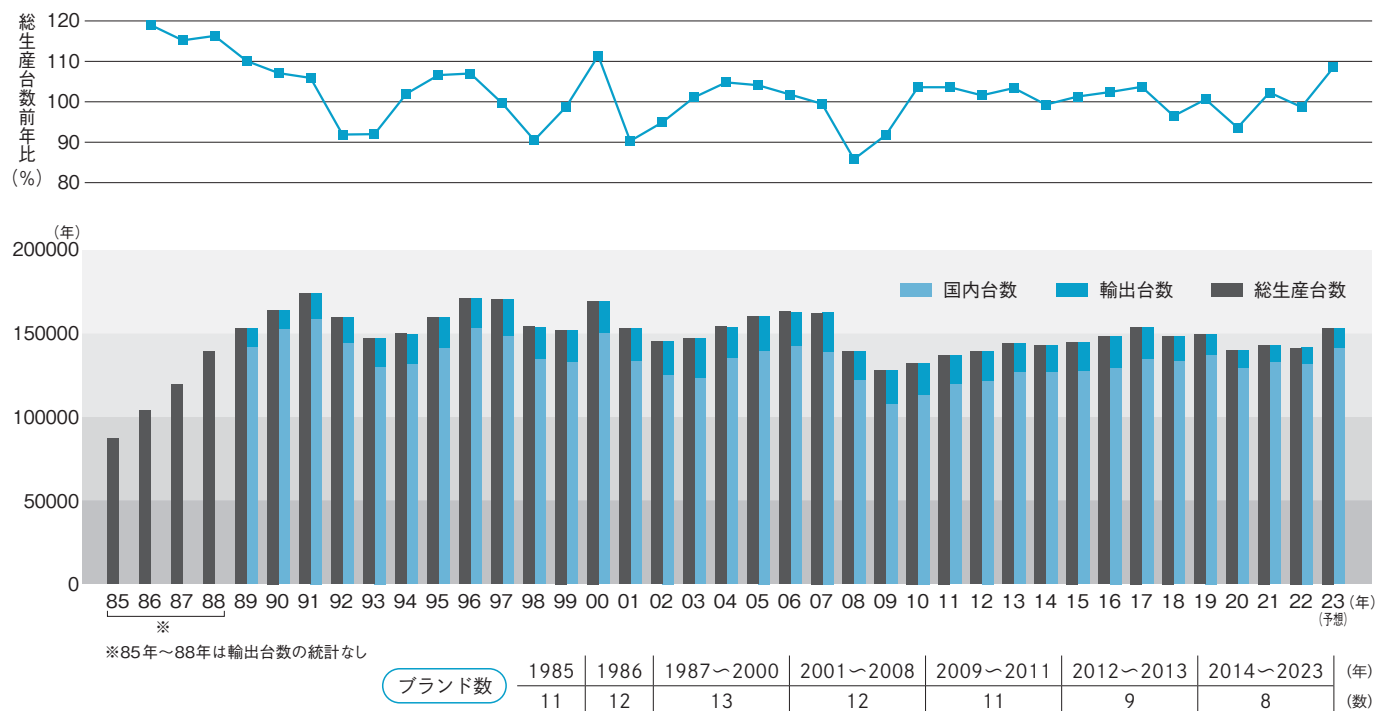
第29条 [解散]

本協会は、総会における正会員の3/4以上（委任状を含む）の決議によって解散をすることができる。
解散時に存する残余資産の処分は当該総会によって決定する。

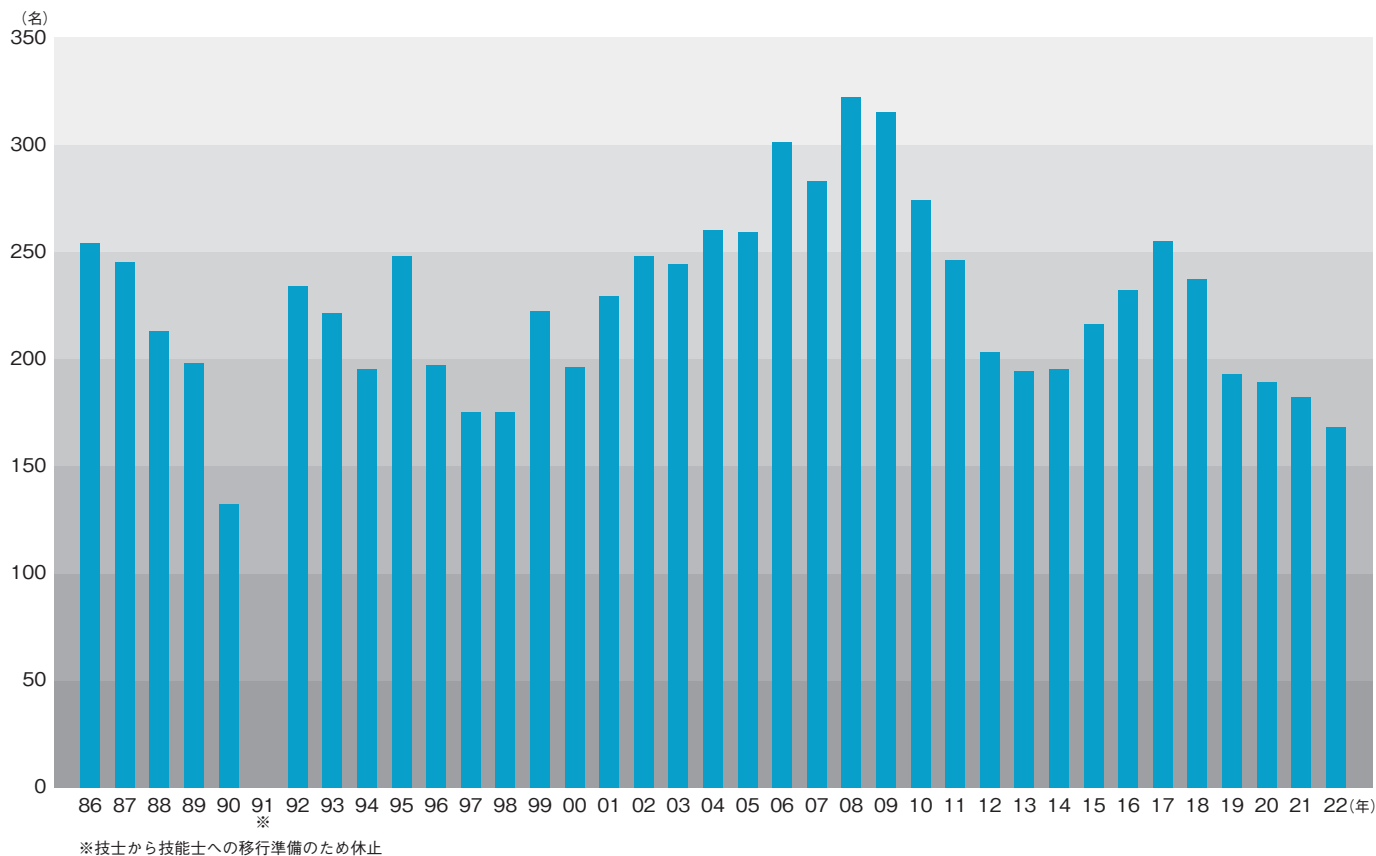
昭和49年 4月 1日 制定	平成 8年 3月14日 改正
昭和54年 2月16日 改正	平成 9年12月 5日 改正
昭和56年 2月17日 改正	平成11年 3月18日 改正
昭和58年 2月17日 改正	平成13年 3月15日 改正
昭和60年 2月21日 改正	平成14年 3月19日 改正
昭和62年 2月17日 改正	平成15年 6月 5日 改正
平成 元年 2月15日 改正	平成17年 6月14日 改正
平成 2年 7月12日 改正	平成18年 6月 7日 改正
平成 3年 2月20日 改正	平成20年 6月 9日 改正
平成 4年 2月19日 改正	令和 元年 7月 2日 改正
平成 4年 7月16日 改正	令和 元年11月20日 改正
平成 5年 7月15日 改正	令和 5年 6月14日 改正

統計資料

生産台数と据付台数



自動ドア施工技能士合格者数



国家検定「自動ドア施工技能士」

当協会では自動ドアに従事する者の技能と地位の向上を図るものとして、1986年に協会認定の施工技士制度を発足しました。1992年に国家検定へ移行してからは、毎年200～300名が認定され、累計約8千名の施工技能士が誕生(移行分884名含む)しています。

JADA

全国自動ドア協会

正会員

※ブランド名五十音順



北陽オートドア株式会社

- 代表：相原 潤
- 住所：大阪市淀川区新高 6-14-58
- 電話：06-6392-1666
- ブランド名
アラビアン



昭和オート株式会社

- 代表：吉浦 昌邦
- 住所：神奈川県神奈川区西寺尾 1-3-2
- 電話：045-433-7070
- ブランド名
ショウワオート



寺岡オートドア株式会社

- 代表：吉田 毅
- 住所：東京都大田区千鳥 3-19-3
- 電話：03-3758-3531
- ブランド名
テラオカ



寺岡オート・ドアシステム 株式会社

- 代表：有倉 良則
- 住所：東京都品川区西五反田 3-6-21
- 電話：03-3493-3585
- ブランド名
テラオカ



フルテック株式会社

- 代表：古野 重幸
- 住所：札幌市中央区南 1 条東 2-8-2
- 電話：011-222-3572
- ブランド名
フルテック



扶桑電機工業株式会社

- 代表：佐野 健二郎
- 住所：東京都品川区南品川 6-3-10
- 電話：03-3474-1200
- ブランド名
ドリーム



オリेंट産業株式会社

- 代表：直江 良憲
- 住所：福岡市中央区舞鶴 1-4-19
- 電話：092-781-0511
- ブランド名
ナブコ



ナブコシステム株式会社

- 代表：内田 正則
- 住所：東京都千代田区霞が関 3-2-5
- 電話：03-3591-6411
- ブランド名
ナブコ



ナブコドア株式会社

- 代表：網倉 克昌
- 住所：大阪市北区堂島 1-6-20
- 電話：06-6136-7284
- ブランド名
ナブコ



ナブテスコ株式会社

- 代表：高橋 誠司
- 住所：東京都千代田区平河町 2-7-9
- 電話：03-5213-1156
- ブランド名
ナブコ



平安通商株式会社

- 代表：長屋 昌宏
- 住所：東京都大田区大森北 3-4-5
- 電話：03-3766-4881
- ブランド名
ビスコ平安



昭和建産株式会社

- 代表：細山 健二
- 住所：群馬県邑楽郡邑楽町中野 1453
- 電話：0276-88-2121
- ブランド名
ミリオン



ハシダ技研工業株式会社

- 代表：吉岡 亨浩
- 住所：大阪市平野区加美北 6-15-14
- 電話：06-6791-7000
- ブランド名
THU ハシダ

賛助会員

※社名五十音順



オプテックス株式会社

- 代表：上村 透
- 住所：滋賀県大津市雄琴 5-8-12
- 電話：077-579-8700

●事業：自動ドア用センサ、
シャッター用センサ、入退室管理 他



ビーイーエージャパン株式会社

- 代表：西村 理希
- 住所：横浜市西区北幸 2-8-19
- 電話：045-565-9560

●事業：自動ドア用センサ、シャッター、
パーキング各種センサ 他



旭光電機株式会社

- 代表：和田 貴志
- 住所：神戸市兵庫区荒田町 1-2-4
- 電話：078-515-8601

●事業：産業用各種センサ、コントローラ、
マイコン応用制御装置 他



藤原工業株式会社

- 代表：松井 均
- 住所：大阪市淀川区加島 3-14-24
- 電話：06-6302-5511

●事業：強化ガラス、強化ガラスドア、
合わせガラスの加工 他



竹中エンジニアリング株式会社

- 代表：佐藤 和昭
- 住所：京都市山科区東野五条通外環西入 83-1
- 電話：075-594-7211

●事業：セキュリティ・情報機器とその周
辺機器の研究開発製造販売業務



株式会社ホトロン

- 代表：本田 忠盛
- 住所：東京都新宿区百人町 1-11-26
- 電話：03-5330-9221

●事業：自動ドア用センサ、看護・介護
用センサ、車両検知用センサ 他



ハードグラス工業株式会社

- 代表：下岡 嵩
- 住所：兵庫県伊丹市北伊丹 7-79
- 電話：072-784-3671

●事業：強化ガラスドア、安全ガラス、
複層ガラス、防犯ガラス 他



株式会社ワーム

- 取締役：湯本 貴光
- 住所：埼玉県和光市本町 24-31 (和光オフィス)
- 電話：048-299-8551

●事業：リモコン、ガイドレール
マットスイッチ、各種パーツ 他

特別会員

※社名五十音順



三和シャッター工業株式会社

- 代表：高山 盟司
- 住所：東京都板橋区新河岸 2-3-5
- 電話：03-5998-9111

●事業：シャッター、スチールドアなど
の製造・販売・施工・修理・点検



三和タジマ株式会社

- 代表：四ノ宮 敏宏
- 住所：東京都豊島区池袋 2-77-5
- 電話：03-5954-5881

●事業：建築用金属製品の設計・製造・
施工・販売

全国自動ドア協会 50年のあゆみ



JADAのあゆみ

1974年	4月▶全国自動ドア協会発足 ▶初代会長 山村 泰三 就任	
76年	2月▶品質向上委員会発足	
77年	5月▶「自動ドア品質基準」制定、初版発行	
	6月▶「自動ドア標準積算価格」発表	
79年	2月▶製造部会・販売部会設置 ▶第2代会長 古屋 勇造 就任	
	6月▶広報委員会発足	
80年	2月▶「全国自動ドア協会会報」創刊 5月▶「自動ドア施工基準」制定、初版発行 ▶「自動ドア保守基準」制定、初版発行	
81年	2月▶第3代会長 梅原 弘一 就任 ▶建設省「身障者のための建築設計の標準化」委員会に委員選出	
	4月▶「自動ドア品質基準」改訂1	
83年	9月▶建設省「昭和60年度版建築工事共通仕様書」の改訂意見提出	
84年	3月▶「自動ドア施工技能審査」に関する研究を開始 4月▶全国自動ドア協会創立10周年記念大会 5月▶「自動ドア施工基準」改訂1 ▶「自動ドア保守基準」改訂1	
85年	5月▶全国に10支部会を結成 ▶流通問題研究会発足 9月▶「自動ドア施工基準」改訂2 ▶「自動ドア保守基準」改訂2	
86年	2月▶技能審査中央審査委員会発足 ▶昭和60年度生産台数の集計 3月▶協会の通産省窓口は機械情報産業局産業機械課に決定 5月▶市場開発委員会発足 7月▶「自動ドア施工基準」改訂3 ▶「自動ドア保守基準」改訂3 10月▶「自動ドア施工技能審査」を労働省が認定 ▶「自動ドアの知識」初版発行	
87年	5月▶第1回自動ドア施工技能審査実施 ▶梅原会長「藍綬褒章」受賞	

第23号

全国自動ドア協会会報

1987. 5. 31

§ 梅原会長、「藍綬褒章」受章さる

この度、定例の春の叙勲で、当協会の梅原弘一会長が「藍綬褒章」を受章されましたので、ご報告いたします。

褒章には、黄綬一、紺綬一、紫綬と色々種類がありますが、梅原会長の受章された「藍綬褒章」は、「教育・社会事業・産業」などの分野で、公共の利益のために大きな功績のあった人に授けられる褒章で、国産第一の自動ドア開発以来、梅原会長のわが国自動ドア業界に残して来られた足跡の偉大さに対する叙勲であり、協会会員一同、心よりお祝いを申し上げる次第であります。



- 10月▶安全問題特別委員会発足
▶「自動ドアの知識」第2版発行

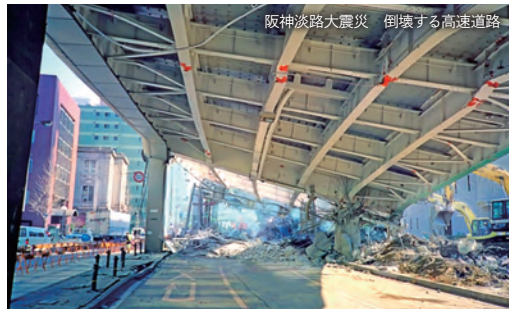
世相・出来事

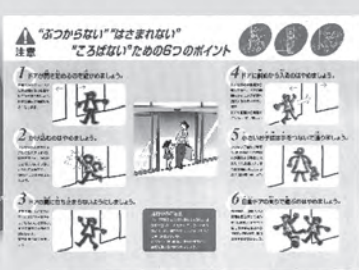
1974年	●長嶋茂雄 引退 ●佐藤栄作氏ノーベル平和賞受賞
75年	●山陽新幹線が博多まで開通 ●ベトナム戦争終結
	IF WE ARE TO HAVE PEACE ON EARTH, OUR LOYALTIES MUST BECOME ECUMENICAL RATHER THAN SECTIONAL. OUR LOYALTIES MUST TRANSCEND OUR RACE, OUR TRIBE, OUR CLASS, AND OUR NATION, AND THIS MEANS WE MUST DEVELOP A WORLD PERSPECTIVE. ベトナム戦争反対の言葉
76年	●モントリオール五輪開催、ナディア・コマネチ人気
77年	●北海道有珠山32年ぶり噴火 ●王貞治 ホームラン世界記録756本
78年	●成田空港開港 ●日中平和友好条約調印 ●米中国交正常化
79年	●第2次石油ショック ●東京サミット開催
80年	●ダイエーが小売業初の年商1兆円達成 ●中国首相 華国鋒(カ・コクホウ)氏来日 ●モスクワ五輪開催、日米など不参加 ●日本の自動車生産台数がアメリカを抜く
81年	●神戸ポートピア81開催 ●アメリカスペースシャトル打ち上げ成功
	スペースシャトル「コロンビア」の初飛行
	●イラン大地震、死者不明者5千人以上
82年	●500円硬貨発行、テレホンカード使用開始 ●東北、上越新幹線開通
83年	●東京ディズニーランド開園 ●秋田県沖日本海中部地震(M7.7) ●フィリピン元上院議員アキノ氏暗殺 ●アメリカ大統領レーガン氏、来日
84年	●グリコ森永事件 ●日本初の衛星放送開始 ●ロサンゼルス五輪開催 ●新1万円札、5千円札、千円札発行
85年	3月▶つくば科学博覧会開催 8月▶日本航空ジャンボ旅客機が群馬県山中に墜落 ●G5プラザ合意、ドル引下げで235円から20円下落
	10月▶阪神タイガース優勝、21年ぶりの日本一
86年	1月▶アメリカスペースシャトル発射直後爆発 4月▶ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故
87年	4月▶国鉄分割・民営化決定 ●土地価格異常高騰(銀座、新宿で坪単価1億円以上も) 7月▶NHK 衛星放送開始 10月▶NY 市場ブラックマンデー株価暴落 11月▶ソ連 バレストロイカ導入 ●大韓航空機爆破事件

JADA のあゆみ

1988年	3月▶業務委員会発足 8月▶「建築物保全業務積算容量書」作成に協力
89年	2月▶消費税に関する共同行為の届出を行う 3月▶業務部会発足 4月▶全国自動ドア協会創立15周年記念大会開催
	
90年	1月▶公益法人化検討特別委員会発足 2月▶「自動ドア品質基準」改訂2
	
	5月▶自動ドア技士の会発足
91年	2月▶第4代会長 三軒 保 就任 6月▶平成3年度第6回自動ドア施工技能審査は、自動ドア施工技能検定に移行準備のために休止 7月▶「自動ドア施工基準」改訂4 ▶「自動ドア保守基準」改訂4 9月▶労働省より技能検定移行に伴う専門調査員の選任を受託 12月▶安全問題特別委員会を安全委員会(常任)に改組
92年	2月▶協会名の英文表記略称「JADA」を決定 ▶「自動ドア保守基準」改訂5 4月▶「自動ドア施工技能審査」が国家検定「自動ドア施工技能検定」へ移行 ▶中央職業能力開発協会より中央技能検定委員の選任を受託 ▶「自動ドアの知識」第3版発行
93年	3月▶初の自動ドア施工技能士誕生 5月▶協会グループ保険制度(団体生命保険)発足 ▶梅原前会長「勲4等瑞宝章」受賞 ▶JIS 委員会発足 10月▶事業創設委員会発足
94年	4月▶全国自動ドア協会創立20周年記念大会を開催 ▶自動ドア施工技士の会を自動ドア施工技能士会に改組 8月▶自動ドア装置の試験方法について工業技術院より JIS 原案作成を受託 12月▶自動乙防委員会発足
95年	1月▶創立20周年記念欧州研修旅行を開催 2月▶JIS 原案作成委託報告書を提出 7月▶PL 法への対応のため「PL ガイドライン」「安全確保の表示に関するガイドライン」「苦情処理マニュアル」「PL 実務Q&A」発行 ▶「自動ドア警告表示ラベル」自主制定、発行 11月▶「JISA1551 自動ドア開閉装置の試験方法」制定
96年	2月▶住宅部品・PL 関連情報連絡会 3月▶「全国自動ドア協会ご案内II」発行 ▶「自動ドアの知識」第4版発行 4月▶「人に優しい建築、住宅推進協議会」に加入 9月▶技術基準委員会改組発足 ▶公共建築協会性能評価制度の基準作成に協力

世相・出来事

1988年	3月●東京ドーム球場完成
	
	4月●瀬戸大橋開通 6月●リクルート事件発覚 8月●イラン・イラク戦争停戦 9月●ソウルオリンピック開催
89年	1月●昭和天皇崩御 4月●一般消費税導入 6月●中国天安門事件 11月●ベルリンの壁崩壊
	
	12月●米ソ首脳マルタ会談で冷戦終結宣言
90年	1月●大学入試センター試験スタート 10月●東西ドイツ統合
91年	1月●中東湾岸戦争勃発 12月●ソ連邦崩壊、ゴルバチョフ氏辞任
92年	1月●アメリカ大統領ブッシュ氏が自動車ビッグ3と来日 3月●東海道新幹線「のぞみ」登場
93年	5月●サッカーJリーグ開幕 10月●冷害の米不足で米緊急輸入
94年	1月●カリフォルニア大地震 9月●関西国際空港開港
	
	10月●大江健三郎氏ノーベル文学賞受賞
95年	1月●WTO(世界貿易機関)発足 ●阪神淡路大震災発生(1月17日)M7.3、死者6,434人
	
	3月●地下鉄サリン事件 7月●製造物責任(PL)法施行
96年	1月●大手スーパー各社が全国で元旦営業実施 5月●O-157集団感染、その後全国で発生

JADAのあゆみ	
1997年	3月▶第5代会長 島田 博允 就任 ▶「自動ドアの知識」第5版 発行 7月▶乙防自動ドア協議会発足 ▶「自動ドア品質基準」改訂3 12月▶年間台数、96年に引き続き17万台を堅持
98年	3月▶「自動ドアの知識」第6版 発行 6月▶協会の会報のモデルチェンジを計り61号として発行 10月▶乙防自動ドア、PR用パンフレット完成 11月▶「自動ドアの正しい通り方」のテレビ番組(通産省PR番組)に島田会長が出演し消費者への「安全」啓蒙に助力
99年	3月▶協会組織改革(スリム化) ▶「自動ドア施工基準」改訂5 ▶「自動ドア保守基準」改訂6 ▶「自動ドアの知識」第7版発行 7月▶協会あんない第3版刊行 ▶「通行者のための安全ガイド」発行 10月▶「自動ドアの知識」第8版発行
2000年	3月▶第6代会長 和田 友一 就任 9月▶日建連、サッシ、ガラス業界団体に受注価格に関して陳情
自動ドア発注価格についてのお願い 品質に見合った価格設定が、業界全体の発展につながる。  全国自動ドア協会会長 和田友一  建設団体他に「お願い書」を提出 以前から懸念されていた新規の受注価格が流通レベルで大幅な落ち込みとなり(下記グラフ参照)、売上が減少し、企業の存続問題にまで発展しかねない状況となっていました。そこで今回「自動ドア発注価格についてのお願い書」を作成し、それを日本建設業団体連合会、日本サッシ協会、全国板硝子卸商組合連合会に持参して訴えました。	
	12月▶年間生産台数、97年以来17万台に回復
01年	2月▶建築基準法改正施行に伴い、協会内部の基準書を改定 3月▶講習会テキストの「自動ドアの知識」改定 ▶「自動ドアの知識」第9版発行 4月▶「自動ドア品質基準」改訂4 ▶「自動ドア施工基準」改訂6 ▶「自動ドア保守基準」改訂7 11月▶パネル討論会「通行者の安全について考える」開催 12月▶「通行者の安全を配慮した自動ドアをお考えの皆様へ」のパンフレットを発行。施主・設計事務所・建築施工会社にて「安全」に関するお願い PR
「自動ドア安全ガイド」の新しいパンフレットが完成しました。  	
	▶協会ホームページ新規立上げ
02年	3月▶会計年度を12月から3月に変更 ▶「全国自動ドア協会」「JADA」を登録商標 6月▶乙防自動ドア協議会を発展的解散 7月▶「製造物責任(PL)法対応ガイドライン」「安全確保の表示に関するガイドライン」「苦情処理マニュアル」「PL実務Q&A」を改訂 9月▶第1回防火設備自動ドア勉強会を開催 12月▶防火設備用自動ドアのパンフレットを発行

世相・出来事	
1997年	4月●消費税5%に引き上げ 7月●香港を英国が中国に返還 11月●山一証券、三洋証券、拓銀など経営破綻 ●たまごっち流行  バリエーション豊かなたまごっち
98年	2月●長野冬季オリンピック開催 4月●金融ビッグバンスタート
99年	1月●ユーロ(EC統一通貨)誕生  ユーロ通貨
	2月●NTTドコモがiモードサービス開始 8月●トルコ大地震(M7.4) 4月●介護保険制度スタート 5月●ロシア大統領にプーチン氏が就任  大統領の証明書を受け取るウラジーミル・プーチン(左)
01年	1月●省庁再編、1府12省庁へ 2月●USJ(大阪)開園 9月●ディズニー・シー(千葉)開園 ●アメリカで同時多発テロ、世界貿易センタービル崩壊(9.11)  現在の世界貿易センタービル
02年	4月●公立学校の完全週休2日制実施 5月●サッカー W 杯日韓共催 10月●ノーベル賞日本人2名受賞(物理学賞、化学賞)

	JADA のあゆみ
2003年	2月▶第2回防火設備自動ドア勉強会を開催 3月▶「自動ドアの知識」第10版発行 ▶2002年度年間生産台数、14万5千台に減少 4月▶住宅部品・PL 関連情報連絡会 11月▶パネル討論会「防犯性の高い建物部品の開発と普及」開催 ▶特別講演会「改正ハートビル法と、その中の出入口」開催 ▶お客様相談部署等担当者意見交換会
04年	4月▶「自動ドア品質基準」改訂5 ▶「自動ドア施工基準」改訂7 ▶「自動ドア保守基準」改訂8 ▶当協会として初めて「大型自動回転ドア」を取扱い対象に追加 ▶「大型自動回転ドア事故防止対策ガイドライン研究会」発足 7月▶「大型自動回転ドア安全対策マニュアル」発表 ▶「自動回転ドア安全規格 JIS 原案作成委員会」発足 9月▶「自動ドア安全ガイドライン策定 PJT」発足 10月▶「自動回転ドア協議会」発足(特別会員4社を含む14社参加) 11月▶協会の経済産業省窓口が製造産業局住宅産業事業建材課となる ▶全国自動ドア協会30周年記念大会(4月開催から延期)
	 30周年記念式典
05年	2月▶第1回 賛助会員交流会開催 3月▶「自動回転ドア安全規格 JIS 原案」研究成果を報告 ▶建物設計、管理面の「自動回転ドア安全啓発広告」掲載 4月▶創立30周年記念事業「海外建築事情視察」催行
	 海外建築事情視察(北米)
	▶「自動ドア安全ガイドライン(スライド式自動ドア編)」自主制定 6月▶第7代会長 本田 佑三 就任 8月▶「JIS A 4721 自動回転ドア-安全性」JIS 規格制定 9月▶「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」発行 ▶「自動ドア安全ガイドライン」に関する会員向け研修会開催 10月▶「自動ドア安全ガイドライン」公表 ▶「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」頒布開始
06年	3月▶「自動ドア安全ガイドライン(スライド式自動ドア編)」周知 広告開始 ▶2005年度生産台数、16万台まで回復 4月▶「自動ドア安全ガイドライン(スライド式自動ドア編)」適用開始 ▶「自動ドア品質基準」改訂6 ▶「自動ドア施工基準」改訂8 ▶「自動ドア保守基準」改訂9 9月▶会員向け研修会「防犯と自動ドア」「自動ドアの安全」開催 ▶「自動ドアの知識」第11版発行
07年	3月▶自動ドア施工技能検定合格者累計4000人突破(4288人) ▶会員向け小冊子「事例研究レポート」発行 8月▶第8代会長 阿部 裕 就任 9月▶会員向け研修会「バリアフリー新法の理解と実践」 ▶「自動ドアの安全性向上に関する理解と実践」開催 ▶女性自動ドア施工技能士の紹介と講演

	世相・出来事
2003年	3月●イラク戦争勃発、中東でテロ続発 ●中国から新型肺炎 SARS 感染拡大、36か国8422人感染 4月●日経平均7607円、20年前の水準に 9月●阪神タイガース 18年ぶりリーグ優勝 12月●地上デジタル放送がNHKと民放で始まる
04年	1月●イラクへ自衛隊派遣(戦後初の国外派遣) ●アジア各地で鳥インフルエンザ広がる 4月●トヨタが平成15年度に日本初の純利益1兆円超え 8月●アテネオリンピックで過去最高のメダル獲得 10月●新潟中越地震(M6.8) 12月●スマトラ島沖地震 ●年間を通じて自然災害多発
05年	3月●愛知万博開催 4月●個人情報保護法施行 7月●中国人民元、初の切り上げ
	 中国人民元
	9月●解散総選挙で自民党圧勝(郵政民営化法案可決) ●日本の総人口が初の減少(1億2776万人)
06年	1月●世界最大規模の三菱東京UFJ銀行発足 ●平成の豪雪、日本各地で最大積雪を記録 ●ライブドアショック、新興市場株低迷 ●日本郵政公社発足 2月●表参道ヒルズオープン
	 表参道ヒルズ
	3月●秋葉原 UDX ビルオープン 4月●耐震強度偽装で姉齒元一級建築士逮捕 5月●改正会社法施行 7月●北朝鮮ミサイル6発日本海へ発射 10月●2002年1月からの景気拡大が「いざなぎ景気」の57ヶ月を抜く ●北朝鮮核実験実施
07年	1月●防衛庁が内閣府から独立し防衛省発足 3月●サブプライムローン問題(世界金融危機)発生 ●東京ミッドタウン開業、総工費3700億円 4月●東京丸の内に新丸ビルオープン



	JADA のあゆみ
2008年	3月▶自動ドア施工技能検定合格者累計4500人突破(4571人) 5月▶小児向け小冊子「自動ドアの安全な通り方」発行 6月▶第9代会長 横山 雄二 就任 8月▶JADA ホームページに「自動回転ドアの安全性 /セーフティファースト」掲載 9月▶会員向け研修会「適正取引ガイドライン勉強会」開催
09年	3月▶自動ドア施工技能検定合格者累計5000人突破(5208人) ▶「自動ドア品質基準」改訂7 ▶「自動ドア施工基準」改訂9 ▶「自動ドア保守基準」改訂10 6月▶第10代会長 今村 雄二郎 就任 6月▶第1回 優秀自動ドア施工技能士表彰 7月▶自動ドア「保守点検のおすすめ」発行 9月▶会員向け研修会「不況の時代の営業マンの役割」 ▶「適正取引ガイドラインの勉強会」開催 12月▶法人制度改革に伴う勉強会
	 2009年度 研修会
10年	3月▶「自動ドアの知識」第12版発行 7月▶日経アーキテクチャ誌に「自動回転ドア、復活の兆し」が掲載 9月▶会員向け研修会「変革こそ明日への道」「改正：適正取引ガイドラインの勉強会」開催 12月▶「戸袋側警告ラベル」自主制定、発行
11年	2月▶JADA 会報リニューアル(表紙カラー化、増ページ、新企画) 4月▶「製造物責任法に関する実務手引書」発行 6月▶第11代会長 三代 洋右 就任
	 2011年度 定期総会
	7月▶「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン」発行 8月▶「自動ドア換気量簡易評価プログラム (SEAVEC)」の勉強会開催 9月▶会員向け研修会「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン」 ▶「製造物責任法に関する実務手引書」開催
12年	3月▶「自動ドア品質基準」改訂8 ▶「自動ドア施工基準」改訂10 ▶「自動ドア保守基準」改訂11 4月▶「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドブック」発行 9月▶会員向け研修会「自動ドアの省エネ効果」「ニュースの裏読み」開催 12月▶「自動ドアを正しくご利用いただくために」改訂版 発行 ▶「自動ドア安全ガイドライン」改訂版 発行 ▶「自動ドア安全ガイドブック」改訂版 発行
13年	2月▶「自動ドア省エネポスター」発行 3月▶「自動ドアの知識」第13版発行 9月▶会員向け研修会「安倍政権下の税制の課題 / 消費税と法人税」 ▶「過去に学び現在を点検し巨大地震に備える」開催

	世相・出来事
2008年	1月●中国製餃子による中毒事件 5月●中国四川省地震発生 7月●洞爺湖サミット開催 8月●北京オリンピック開催 ●アメリカ リーマンブラザーズ経営破綻 10月●ノーベル賞日本人4名受賞(物理学賞、化学賞) 1月●アメリカ大統領にオバマ氏が就任
09年	 バラク・オバマ 4月●新型インフルエンザ世界的流行 5月●裁判員制度スタート 6月●アメリカ GM 社が経営破綻 8月●衆議院選挙で民主党圧勝し政権交代
10年	1月●日本航空 会社更生法適用(過去最大の破綻規模) 4月●宮崎県で家畜伝染病口蹄疫発生 6月●小惑星探査機「はやぶさ」帰還 ●サッカー W 杯 日本代表ベスト16入り
11年	3月●八百長問題で大相撲春場所中止、25人が角界追放 ●東日本大震災発生(M9.0)死者15,628人 ●福島原子力発電所事故発生
	 東日本大震災翌日の大船渡の町
	5月●アルカイダのビンラディン氏が殺害される 7月●女子サッカー W 杯ドイツ大会で日本が初優勝 ●電力不足により東電が初の計画停電(夏は15% 節電) 12月●北朝鮮の金正日総書記が急死、三男金正恩氏が継承
12年	3月●ロシア大統領にプーチン氏が就任 ●世界人口が70 億人突破(アメリカ国勢調査) 5月●東京スカイツリー開業(高さ634m)
	 東京スカイツリー
	8月●ロンドンオリンピック開催 9月●中国で尖閣列島国有化問題でデモ暴徒化 11月●中国総書記に習近平氏が選任
13年	2月●アベノミクス効果で円安進む(94円 / ドル) 4月●中国で鳥インフルエンザ発生 5月●三浦雄一郎がエベレストに史上最高齢(80歳7ヶ月)で登頂成功 6月●「富士山」が世界文化遺産に登録 12月●南アフリカ元大統領マンデラ氏逝去

JADA のあゆみ	
2014年	4月▶全国自動ドア協会40周年記念大会 
	9月▶会員向け研修会「建設業における社会保険未加入問題」 ▶「百戦百勝！クレーム対応の極意」
	10月▶「こんな業者にはご用心」発行
	12月▶創立40周年記念事業「海外視察」催行（ミャンマー）
15年	3月▶「自動ドア品質基準」改訂9 ▶「自動ドア施工基準」改訂11 ▶「自動ドア保守基準」改訂12
	7月▶「事例研究レポート（戸袋編）」発行
	9月▶会員向け研修会「自動ドア安全 JIS 規格・中間報告」 ▶「腸スッキリ！健康法」
16年	3月▶「自動ドアの知識」第14版発行
	5月▶「歩行者用自動ドア JIS 安全規格」を日本規格協会に提出
	6月▶第12代会長 上仲 宏二 就任
	9月▶会員向け研修会「歩行者用自動ドア JIS 安全規格の説明会」 ▶「ビジネスにおけるウソの見抜き方」
17年	3月▶「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」が制定
	6月▶会員向け研修会「JIS 運用マニュアル（安全編）の説明会」 ▶「仕事の渋滞、解消の法則」
	9月▶運用マニュアル（設計編）、運用マニュアル（安全編）、JIS 準拠歩行者用自動ドアセット〈引き戸〉安全ガイドブックを発行 ▶JIS A 4722 Q&A をデータ配信 ▶新省エネポスターの頒布
18年	3月▶「全国自動ドア協会 独禁法コンプライアンス規程」を制定
	5月▶トップページの TOPICS を INFORMATION に変更
	8月▶INFORMATION に防火設備用自動ドアの使用停止について記載
19年	3月▶「自動ドアの知識」第15版発行 ▶「自動ドア品質基準」改訂10 ▶「自動ドア施工基準」改訂12 ▶「自動ドア保守基準」改訂13
	4月▶トップページ INFORMATION 自動ドア・特定機能・防火設備用自動ドア 修正
	6月▶第13代会長 箱田 大典 就任
	8月▶「保守点検のすすめ、通行者の安全に配慮した自動ドアをお考えの皆様へ」 カタログへのダウンロード削除
20年	9月▶「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」原案改正作業部会発足
	11月▶「JIS A 1551 自動ドア開閉装置の試験方法」改正原案を日本規格協会へ提出
21年	4月▶「JIS A 1551 自動ドア開閉装置の試験方法」を改正
	9月▶消費者安全調査委員会の事故等原因調査報告書（自動ドアによる事故）の要請に対応すべく、自動ドアの安全対策について周知実施
22年	3月▶「JADA 注意喚起表示ラベル」の頒布開始
	9月▶「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」を改正 ▶「JIS 準拠安全ガイドブック〈引き戸〉」四版改訂
23年	1月▶第14代会長 内田 正則 就任
	3月▶「自動ドア品質基準」改訂11 ▶「自動ドア施工基準」改訂13 ▶「自動ドア保守基準」改訂14
24年	1月▶集合玄関機での事故防止対策ステッカー頒布開始
	3月▶「自動ドアの知識」第16版発行 ▶「運用マニュアル（設計編）」改正 ▶「歩行者用自動ドアセット安全対策運用マニュアル」制定

世相・出来事	
2014年	2月●ソチ冬季オリンピック開催 4月●消費税が5% から8% に引き上げられる 6月●サッカー W 杯ブラジルで開催 10月●ノーベル賞日本人3名受賞(物理学賞)
15年	1月●イスラム過激派組織(ISIL)により日本人2名が殺害 6月●日本年金機構、個人情報約125万件が流出 7月●第153回芥川賞に又吉直樹氏の「火花」 9月●ラグビー W 杯で日本が強豪南アフリカに歴史的勝利 10月●ノーベル賞日本人2名受賞(医学賞、物理学賞)
16年	1月●マイナンバー制度開始 2月●シャープが台湾の「鴻海精密工業」の傘下に入る 3月●「民主党」と「維新の党」が合併して「民進党」になる ●北海道新幹線開業 4月●電力の自由化が始まる 5月●伊勢志摩サミット開催 6月●イギリスが国民投票で EU 離脱へ 8月●リオデジャネイロオリンピック開催 ●東京都知事に小池百合子氏当選
17年	10月●大隅良典氏ノーベル生理学・医学賞受賞 1月●アメリカ大統領にトランプ氏が就任 ●稀勢の里が横綱昇進(日本人として18年ぶり) 2月●北朝鮮 金正男氏がマレーシア空港で暗殺 4月●フィギュアスケート 浅田真央 引退 5月●フランス大統領にマクロン氏(史上最年少39歳)が就任 ●韓国大統領に文在寅(ムン・ジェイン)氏が就任 6月●14歳の藤井聡太四段、前人未到の29連勝 ●天皇陛下/退位特例法が成立 10月●衆議院解散、民進党解党、新しく「希望の党」「立憲民主党」が立ち上がる ●神鋼データ改ざん、日産、スバルで無資格検査 ●羽生善治棋聖が史上初永世7冠達成
18年	1月●仮想通貨(コインチェック)で不正アクセスにより580億円相当が盗難 2月●ピョンチャン冬季オリンピック開催 10月●築地市場83年の歴史に幕 11月●日産会長ゴーン氏逮捕
19年	1月●横綱 稀勢の里 引退 2月●探査機はやぶさ2、小惑星リュウグウに着地成功 3月●大リーグ イチロー引退 4月●ノートルダム寺院焼失 5月●天皇陛下が即位、「令和」に改元 8月●渋谷日向子 全英女子オープン優勝 10月●消費税率10% スタート ●沖縄・首里城が焼失 11月●ローマ教皇が38年ぶり来日 12月●アフガニスタンで中村哲氏が銃撃され死亡
20年	1月●イギリスが EU 離脱、新型コロナウイルス中国で発生 
	2月●新型コロナウイルス世界に拡散 3月●JR 東日本 高輪ゲートウェイ駅開業
21年	1月●アメリカ大統領にバイデン氏が就任 2月●ミャンマーでクーデター国軍が全権掌握 3月●横綱 鶴竜引退 4月●アメリカ、アフガンから撤収開始 6月●笹生優花 全米女子オープン優勝 7月●東京五輪開幕 8月●タリバンがアフガンを制圧 9月●横綱 白鵬引退 10月●岸田内閣発足、真鍋淑郎氏ノーベル物理学賞受賞 11月●大リーグ 大谷翔平が MVP
22年	1月●体操 内村航平 引退 2月●ロシア軍ウクライナ侵攻 3月●新型コロナまん延防止全面解除 4月●ロッテ 佐々木朗希 28年ぶり完全試合 5月●韓国大統領に尹錫悦(ユン・ソンニョル)氏が就任 6月●北欧2か国 NATO 加盟合意 7月●安倍前首相銃撃され死亡 9月●エリザベス女王国葬 10月●イギリス首相にスナク氏が就任
23年	2月●日銀総裁に植田和男氏 5月●広島で G7サミット開催 10月●将棋 藤井聡太 史上初8冠制覇 12月●大リーグ 大谷翔平ドジャースと史上最高10年1015億円で契約
24年	1月●石川県震度7大地震発生

J A D A 刊 行 物 の ご 紹 介

▶1999年12月発行（2022年11月改訂）



通行者のための安全ガイド

A4 / 4頁 / 2色刷

自動ドアを安全・快適にご利用いただくために「自動ドアのしくみ」、「正しい通り方」、「守っていただきたいこと」をイラストや図を使って分かりやすく解説したパンフレットです。
“通行中のスマートフォン使用の危険性”など、時代の変化とともに改訂を重ね、25年以上発行を続けています。

▶2008年6月発行（2019年3月改訂）



自動ドアの安全な通り方

A5 / 8頁 / フルカラー

これまでとは少し視点を変え、小学生・未就学児とその保護者・教育者の皆さま向けの小冊子「自動ドアの安全な通り方」を作成しました。
イラストを使って具体的な例を説明しながら、「ぶつかからない」「はさまれない」ための“自動ドアの安全な通り方”を紹介しています。
また全ての漢字にルビをふるなど、お子様にも伝わりやすい工夫を取り入れています。

▶2014年9月発行（2015年10月改訂）



こんな業者にはご用心!!

A4 / 2頁 / フルカラー

全国自動ドア協会では、自動ドア所有者の皆様が安心してご利用いただけるように、メンテナンスに関する注意を促すリーフレット「こんな業者にはご用心!!」を作成しました。
全国自動ドア協会に実際に報告された具体的な事例をもとに、イラストを使って分かりやすく解説しています。

▶2017年5月発行



自動ドアの省エネポスター

A2 / 1頁 / フルカラー

省エネや環境問題が注目される近年、全国自動ドア協会も、自動ドアの優れた消費電力と閉じ忘れ防止による冷暖房費軽減効果を解説した省エネポスターを作成しました。
ポスターは国土交通省、経済産業省、関連団体に配布し、建築関連の省エネイベントでも使われています。
また定期的に、建築業界向け雑誌に自動ドアの省エネ広告を掲載し、意外と知られていない自動ドアの消費電力の低さをアピールしています。

J A D A 刊 行 物 の ご 紹 介

▶2017年9月発行（2022年12月改訂）



JIS 準拠 歩行者用自動ドアセット〈引き戸〉安全ガイドブック

A4／8頁／フルカラー

自動ドアの安全規格「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」が施行されたことを受け、JIS に準拠した新しいパンフレットを作成しました。引き戸の自動ドアを対象にして、自動ドアの計画、設置及び管理の各段階における要点を解説したパンフレットです。

自動ドアの安全性を向上させるためには、設置計画から保守管理までの段階において自動ドアに係わる関係者全員の十分な理解と協力が必要です。

▶2018年7月発行



注意啓蒙ポスター

A2／1頁／フルカラー／全5種

自動ドアの安全規格「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」の啓蒙活動の一環として、「注意啓蒙ポスター」を作成しました。絵柄は全5種類で、自動ドアの設置環境（病院、商業施設、マンションなど）に合わせて最適なポスターを選択することができます。

会員各社を通じて全国へ配布し、病院や商業施設などで活用されています。

▶2023年6月発行



JIS 準拠 歩行者用自動ドアセット〈バリアフリースイート〉安全ガイドブック

A4／12頁／フルカラー

自動ドアの安全規格「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」の改正（2022年9月）により、バリアフリースイート用自動ドアが適用対象となったことに伴い、JIS 準拠歩行者用自動ドア〈バリアフリー〉を新たに作成しました。

このガイドブックはバリアフリースイートとして、個別機能ごとに分散配置する車椅子使用者便用自動ドアセット（多機能トイレ含む）、及び一般便房用自動ドアセットに適用します。

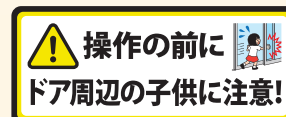
●立ち止まり・駆け込み注意ラベル例



●戸袋側警告ラベル例



●集合玄関機での事故防止対策ステッカー



●注意喚起表示ラベル



謝 辞

三木 敏生(企画委員長)
創立50周年記念大会実行委員会委員長



全国自動ドア協会創立50周年を迎え、この特別な機会に心からの祝福と感謝の意をお伝えいたします。50年という長い歴史の中で、私たちは自動ドア技術の発展と普及において、驚異的な進歩を遂げてきました。この節目を祝うために、会員各社、支援者様、協力者様、そしてすべての自動ドアの利用者様に感謝の意を表します。

協会が設立された1974年当時、自動ドアは革新的な技術であり、多くの人々にとって未知の存在で、その利用は限られていました。しかし、われわれ全国自動ドア協会は常に進歩と変化を推進し、自動ドア技術の普及と改善に尽力してきました。

その成果が今日の自動ドアの普及につながり、今や自動ドアは私たちの生活の一部として不可欠な存在となっています。公共施設、医療施設、商業施設、交通機関、住宅など、あらゆる場所で自動ドアが設置され、私たちの日常生活の一部として、人々の生活を支えています。協会の存在が、自動ドアの利点を最大限に引き出し、人々の生活をより快適に、安全に、アクセス可能にするために果たした役割は計り知れません。

また、協会は技術革新と安全性向上においても重要な役割を果たしてきました。自動ドアが安全かつ信頼性のあるものであるためには、継続的な努力、品質や技術の向上が必要です。我々は、その要請に応え、最高水準の品質と安全性を維持し、自動ドアの利用者の信頼を築くために尽力してまいりました。

50周年という節目の年を迎えて、私たちは誇りに思うと同時に、未来への展望を共有し、新たな目標に向かって前進します。自動ドア技術は今後も進化し、変動していく社会のニーズに応え続ける必要があります。私たちは技術の革新を支援し、自動ドアの普及を通して、社会に貢献し続けてまいります。

最後に、これまで協会にご支援いただいたすべての会員各社、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。私たちは50年の歴史を共に歩んできましたが、これからも皆様と協力し、自動ドア技術の進化と発展を推進してまいります。今後の50年も、安全で便利な社会を築くために共に努力し続けましょう。ありがとうございます。

編集後記

吉田 毅(広報委員長)

全国自動ドア協会創立50周年を迎え、ここに記念誌を発刊できますことをたいへん喜ばしく思います。記念誌作成にあたり、ご寄稿くださいました協会OBの皆様、協会役員、各委員会委員長、ご協力いただいた会員の皆様、広報委員会委員、事務局に厚く感謝いたします。

協会幹部役員による座談会では、自動ドア業界の根幹に関わるテーマについて、さまざまな観点から意見が交わされました。これからの自動ドアを考えるための「しるべ」となるように思います。

これから60周年、70周年そして100周年へと歴史を刻んでまいります。当協会の一層の発展と自動ドアの進化を祈念して、編集の言葉といたします。

作成した私たち広報委員会委員にとりまして、この記念誌をひとりでも多くの会員の皆様にお届けすることができれば幸いです。

JADA

全国自動ドア協会

〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18
TEL 03-3436-3287 FAX 03-5473-9576
Eメール: jadainfo@pastel.ocn.ne.jp
URL: <http://jada-info.jp>

2024 年 5 月発行